

# CSRレポート 2017

2016年度 社会的活動報告書  
—2016年4月1日～2017年3月31日—



市民生活協同組合ならコープは、社会的責任経営の説明責任を果たすために2005年から「ならコープCSRレポート」を発行しています。

本報告書は、

## 編集方針

- ならコープの社会的責任経営の取り組みを、組合員、総代、ならコープ役職員、子法人・関与法人役職員、取引先、行政、諸団体などステークホルダーの皆様にはわかりやすく、誠実に報告すること
- ならコープの地球温暖化防止自主行動計画がフォローアップの対象になることを踏まえ、事業責任者としての温暖化対策の姿勢、具体的なアクション、実績および計画を明らかにすることをめざしています。

## 報告対象期間

2016年4月1日～2017年3月31日

## 報告対象範囲

本報告書では、特にことわりがある場合を除いては、ならコープの単体の組織と事業を記載対象としています。

## 発行時期

毎年5月



子ども新聞採り体験取材



「生協はじめて～HELLOならコープ～」講座



組合員のつどい(移動店舗車)



## CONTENTS

2 トップメッセージ



### 3 社会活動報告

3 生活協同組合とは

4 コーポレートガバナンス

5 社会貢献活動

8 毎日のくらしを支えます

11 安心してらせる地域づくりのために

13 組合員と広げる商品、くらしの活動

16 ユニセフ・平和活動

17 食の安全を確保する仕組みをより確かなものへ

18 安心・安全をお届けする義務として

20 コミュニケーション

21 より良い職場をめざして



### 24 環境活動報告

24 事業活動における環境配慮の取り組み

27 エネルギー政策に基づく取り組み

29 事業系廃棄物削減の取り組み

30 再資源化の取り組み

31 組合員とともにすすめた環境活動

33 環境マネジメントシステムの運用 — ISO14001:2004 30

35 豊かな自然と文化を守り子どもたちに引き継ぐため、環境にやさしい地域づくりをすすめます

37 グラフで見る ならコープの環境活動

39 2016年度 環境監査報告書

40 環境監査報告書への対応

41 第三者意見

42 プロフィール(組織の概要)

ならコープCSRレポート2017に関するお問い合わせ

市民生活協同組合ならコープ CSR組織広報部

TEL 0742-34-8735 FAX 0742-88-6170



ならコープマスコット  
「ならっぴ」



代表理事 理事長

森 宏之

## 安心してらせる地域づくりのために、 ともに地域での協同をすすめていきます。

「第11次中期計画」の初年度となる2016年度到達点は、奈良県内で約26万9,972人、46%の世帯が加入される組織に成長、出資金残高は99億5,435万円と前年同期を2億3,934万円上回りました。供給高は、386億5,021万円を確保、無店舗と店舗の両事業で前年実績を超過する増収で終え、過去最高水準になりました。これもひとえに組合員の皆様、奈良県をはじめとした行政と各自治体の皆様、全国各地の生協仲間の皆様、共栄会を中心にしたお取引先各社の皆様のご指導、ご支援、ご協力を得て、到達しえた結果と考えております。心よりお礼申し上げます。

お蔭様で、2016年度は、熊本・大分地震の被災地支援をはじめ、被災地に寄り添った支援を継続することができ、つながりを深めたと確信します。なお、県内では北・中・南という3つのエリアと県下各地でならコープネットの活動が展開され、地域とともに環境・エネルギー・福祉・子育て・平和・ユニセフ・消費者運動等各分野で活動を広げることができました。

本部事業棟、コープなんごうの出店等によって、地域の方々がつどえる場所が増え、新しい仲間が増えたことが嬉しい出来事です。「吉野共生プロジェクト」の取り組みでは“吉野の森と水を守る運動”の拠点となる吉野事業所（吉野町西谷）を竣工、南部地域の活性化につながる各種新規事業が展望できることになりました。

さて、2017年度事業計画は、たすけあいの共生社会づくりをならコープの使命とし、新システムを導入し、各種サービス拡充にチャレンジいたします。奈良市にあらたに、コープ七条を秋にオープンいたしますが、商品・サービスも充実させ、生涯にわたって利用してもらえる新しいくみに転換いたします。

今、私たちは大切な協同組合組織を100年にわたって存続させるため、創立時の高い「志」に立ち返って、たすけあいと協同連帯の歴史に学び、新しい時代に適応していく必要があります。古都奈良の地に多数者生協を建設し、明るく住みよい街づくりと平和な暮らしを守り、生活文化の豊かな華を咲かせようとした奈良市民生活協同組合創設者たちの大きな「夢」を大切にしていきたいと考えています。

ならコープは子会社である「(株)奈良コープ産業」並びに「(株)CWS」と共にISO9001（品質）とISO14001（環境）を合せた「統合マネジメント」による活動を推進しています。障がい者と共につくる「(株)ハートフルコープなら」と「(株)ハートフルコープよしの」の新会社を成長させ、「(株)コープエナジーなら」を新たに加えた5社による「ならコープグループの経営理念」を共有統合して、県民への貢献を深めたいと考えています。皆様から、ならコープがあってよかったね!と喜ばれるグループづくりに全力をあげてまいります。今回も不十分な取り組みではございますが、2016年度まとめとして「CSRレポート」をご報告申し上げます。関係者の皆様方の忌憚のないご意見をいただければ幸いです。

# 生活協同組合とは

生活協同組合は、「国民の自発的な生活協同組織の発達を図り、もって国民生活の安定と生活文化の向上を期することを目的（消費生活協同組合法）」とした消費者の協同組織です。市民生活協同組合ならコープは、社会の構成員としての自覚を持った「市民」が協同して、事業と運動を通して自らの生活改善、地域の人々のくらしと文化に貢献することを使命としています。

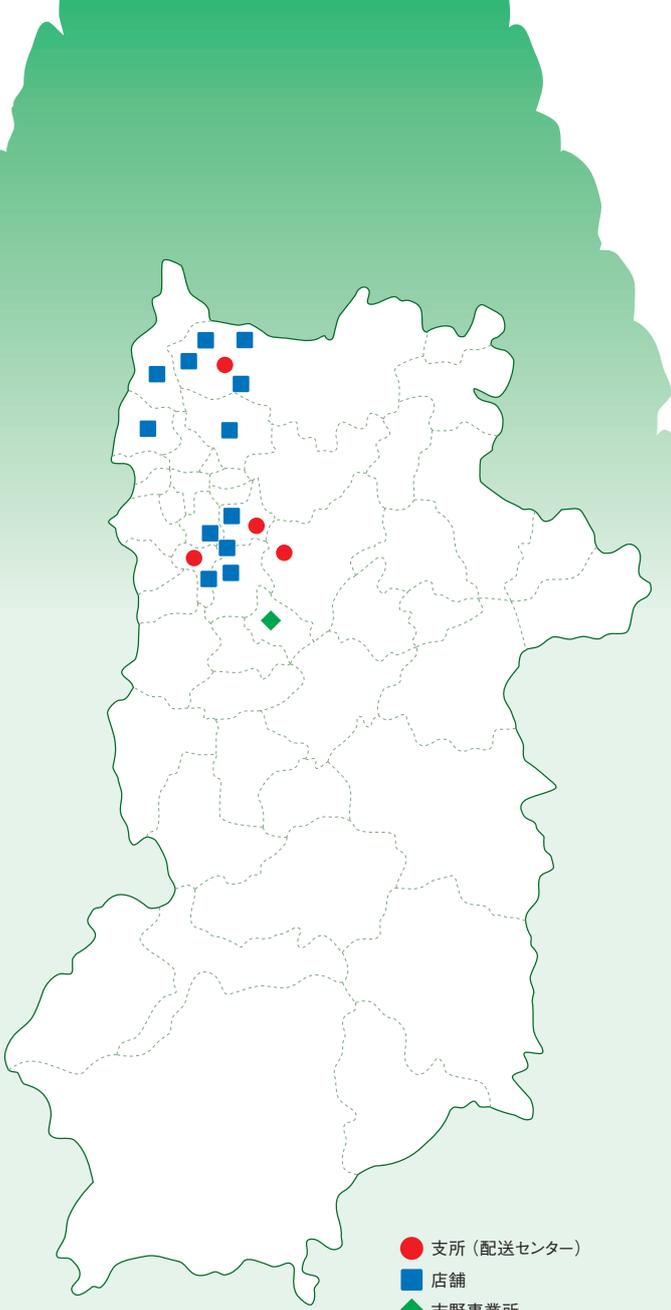


ならコープのシンボルマークは、話し合い、力を合わせる協同の輪をイメージしています。三つの輪を象徴した形は、「話と和と輪」「出資・利用・運営」「安心・安全・信頼」など生活協同組合の基本理念を表現しています。上昇を意味する楕円の傾きは、ならコープが組合員、職員、地域社会との確かな信頼関係のもとに、未来に向かう可能性と躍動感を表現しています。

## 協同組合がユネスコの「無形文化遺産」に登録

国際連合教育科学文化機関（ユネスコ）は昨年11月に開催された無形文化遺産保護条約第11回政府間委員会において、「共通の利益の実現のために協同組合を組織するという思想と実践」のユネスコ無形文化遺産への登録を決定しました。ユネスコは、協同組合を「共通の利益と価値を通じてコミュニティづくりを行うことができる組織であり、雇用の創出や高齢者支援から都市の活性化や再生可能エネルギープロジェクトまで、さまざまな社会的な問題への創意工夫あふれる解決策を編み出している」と評価しています。今回の登録は、全世界で展開されている協同組合の思想と実践が、人類の大切な財産であり、今後さらに発展させていくことへの期待も込めて、評価されたものと考えます。

ならコープは今後も協同組合の仲間と連携しながら、よりよい地域社会づくりに貢献できるよう活動を続けてまいります。



● 支所（配送センター）  
■ 店舗  
◆ 吉野事業所

**主な事業** 生鮮食品、食品、衣料品や日用品などの供給事業、サービス事業、受託共済事業など店舗10、支所（配送センター）4、田原本物流センター1、吉野事業所1

**ならコープ供給高** **386億5,021万円**  
(前年比100.9%)

**組合員数** **269,972人**  
(前年比102.6%)

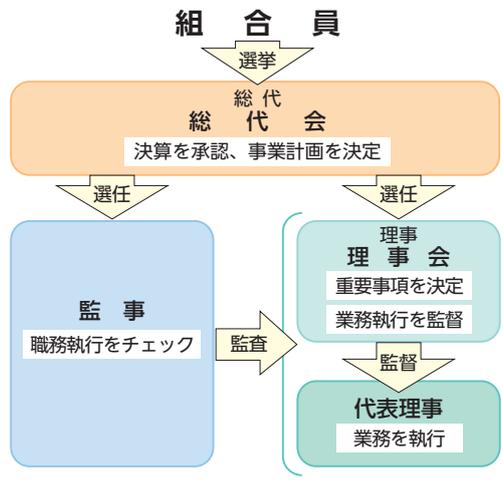
**無店舗事業供給高** **276億241万円**  
(前年比101.0%)

**出資金** **99億5,435万円**  
(前年比102.5%)

**店舗事業供給高** **110億4,636万円**  
(前年比100.8%)

## 2016年度目標の到達状況

輸入原料の高騰による商品価格引き上げや自然災害、悪天候などにより農産品を中心とした価格高騰が続いた中、組合員へのくらし応援をすすめた結果、増収を確保でき、過去最高の供給高となりました。業態別では、店舗事業は、県内の競争が激化する中、11月にはコープなんごうをオープンするとともに、コープあったか便やコープあったか便移動店舗、「いこいこシニアデー」など支持され、供給高は予算、前年実績を上回ることができました。無店舗事業は供給高予算を下回りましたが、新規仲間づくりによる利用組合員増加と組合員一人ひとりの利用結集、夕食宅配の伸長などによって、前年供給高は上回ることができました。



総代通信



第44回通常総代会

## コーポレートガバナンス

ならコープでは「組合員主権の協同組合ガバナンス」と位置づけて取り組んでいます。

### 総代会

総代会は最高議決機関です。組合員の代表として選出された総代が出席し、組織の活動方針を議決します。機関運営の要である総代への情報開示と議案を理解していただくことが重要と考え、春の地域別総代会議（4月）、エリア別総代会議（5月）、秋の地域別総代会議（11月）を開催、総代バスツアー、総代オリエンテーションを開催しました。毎月「COOPNOW（総代通信）」を発行し、日常のコミュニケーション充実にも努めています。

#### 〈構成〉

- ・総代定数510人  
県内を17の選挙区にわけ、各選挙区の組合員数の按分にて各定数を設定

#### 〈開催〉

- ・年1回

#### 〈第44回通常総代会〉

- ・6月14日（火）奈良県橿原文化会館
- ・出席475人（委任・書面議決含む）

#### 主な審議

- ・2015年度の事業報告および剰余金処分案、2016年度の事業計画および収支予算案 他  
すべての議案が可決・承認され、内容は機関誌「あをがき」7月号に掲載されました。

### 理事会

総代会の議決に基づく業務の執行や運営に関する重要事項を決定し、経営の健全性と透明性を確保しています。原則として毎月1回開催されます。

#### 〈構成〉

- ・非常勤組合員理事18人 ・学識経験者理事7人
- ・代表理事を含む常勤理事4人 計29人（内4人は員外）

### 監事

理事の業務執行を監査しています。

#### 〈構成〉

- ・非常勤組合員監事2人
- ・学識経験者監事2人（内1人は員外）
- ・常勤監事1人 計5人

### 監査

監事監査のほか監査法人の会計監査を実施しています。監査法人の会計監査では貸借対照表、損益計算書及び決算関係書類に対する注記並びにその附属明細書について監査しています。あわせて、内部監査担当を配置し、財産の状況および業務活動、ならびに諸規程、諸手続きを日常的に独自に監査し、経営の合理化、能率の向上および財産の保全等に努めています。

### 各委員会

- ・ **理事会経営小委員会：**  
学識経験者理事と常勤理事他で事業経営に関する事項を審議します。
- ・ **コンプライアンス委員会：**  
ならコープグループコンプライアンス経営基本規程に基づき、理事会の諮問事項について審議し、理事会に答申します。
- ・ **役員人事委員会：**  
常勤理事の業績評価とそれに基づく報酬、処遇および登用と、学識経験者理事および常勤理事の選考を審議します。
- ・ **役員報酬等検討委員会：**  
役員の報酬、処遇に関する規程等を検討し、理事長に答申します。



1 2

1. 福島の子ども保養プロジェクト in なら



2. 被災地応援企画 田崎飛鳥氏 絵画展

## 社会貢献活動

### 2016年度災害支援・応援活動報告

2011年3月11日の東日本大震災発災から丸6年が経過し、被災地の状況も大きく変化しています。2016年度も大きな被害をもたらした自然災害の中、ならコープは、被災地の皆さんが震災の被害から自力で生活再建をすすめられるように、組合員と一緒にさまざまな支援・応援活動を展開してきました。今までの取り組み以外に、要望が多かった「もっと現地の方と交流できれば」の声に応え、現地の方の家に宿泊してお手伝いをおこなう、民泊企画を実施しました。今後も引き続き被災地を忘れないという決意のもと、被災地に寄り添い、風化させない活動をおこない、被災者の自立に繋がるよう復興応援活動を続けてまいります。

#### 福島の子ども保養プロジェクトinなら

奈良県では、昨年に続き5回目の実施となる「福島の子ども保養プロジェクトinなら」を、東大寺、近畿労働金庫、(株)奈良口イタルホテル、(株)黄金糖、奈良県生活協同組合連合会、福島の子ども保養プロジェクトの協力を得て開催し、7月29日(金)から8月1日(月)にかけて、12家族38人(子ども22人)に奈

良で過ごしていただきました。参加した保護者からは「短い期間でも保護者や子どもたちは、日々のストレスから解放されることが出来ます。何も気にせず外を走り回り、好きなものを食べ、思い切り深呼吸できる機会を与えて頂きありがとうございました」など、他にも多くの感想と感謝の言葉をいただきました。

#### 東北応援バス ～私たちは忘れない東北のことを、そして微力は無力ではないことを!～

2012年から引き続き2016年度も、おおさかパルコープ・大阪よどがわ市民生協と共同して被災地岩手県陸前高田市・大槌町を中心に7回の東北応援バスを運行しました。大学との連携など、多数の参加があり、ならコープからはのべ56人が参加しました。現地での活動は、農水産の作業支援をはじめ、仮設住宅での交流やお祭りのお手伝いなど、さまざまな活動をおこなってきました。2012年からののべ参加者は682人となり、2017年度も「東北応援バス」としてこの活動を継続します。また3月に被災地応援企画として「わたしたちは忘れない ～田崎飛鳥氏 絵画展示～陸前高田市・熊本県西原村との交流 IN コープなんごう」を開催しました。また東北応援バス参加者などの組合員と役職員有志でつくる「ちょこボの会Next」メンバーは、被災地で作られた手作り品、マドレーヌなどを販売する「東北お手伝いショップ」活動を、コープおしくま、コープ学園前、コープ朱雀、ディアーズコープいこま、ディアーズコープたつたがわ、コープたかだで定期的に行っていました。



東北応援バス



3 4

3.桜ライン311 植樹会 (11月)



4.民泊体験 (陸前高田市)

### 東日本大震災及び熊本地震被災者への応援

熊本地震の発生で仮設住宅暮らしを余儀なくされた熊本県西原村の住民に防寒具（手袋やマフラー）の贈呈を決め、この製作を岩手県にある合同会社東北クロッシェ村に依頼しました。東北クロッシェ村は東日本大震災の被災者が協力しあって生活の再建をめざすニット製作会社であることから経済面の自立応援として、また、熊本地震被災者の心のケアになるよう防寒具の製作者からの応援のお手紙を添えて1月にお届けしました。

### 「植樹会」（特定非営利活動法人「桜ライン311」主催）へのボランティア参加

東日本大震災では津波被害に関する過去の教訓は生かされず、多くの尊い命が犠牲となりました。岩手県陸前高田市にある特定非営利活動法人桜ライン311は東日本大震災で津波が到達した地点に桜の苗木を植樹し、再び大地震が発生した際、この地点より高地に避難することを後世に伝え続ける活動に取り組んでいます。ならコープはこの活動に賛同し、11月に組合員とならコープグループ役職員計27人が植樹活動のボランティアに参加し、被災地および被災者の今を実感しました。

### 熊本・大分地震への災害支援（ならコープグループ、社会福祉法人協同福祉会）

4月14日発災した熊本・大分地震に対して、「熊本地震災害緊急支援募金」に取り組み、23,893,166円の善意が寄せられました。募金は日本生協連をつうじて、「義援金」「支援金」として、被災自治体や被災県の支援団体・ボランティアセンター等に送金させていただきました。

#### ●人的支援

4月、厚生労働省から日本生協連への緊急支援要請を受け、熊本市の支援物資集約基地支援に職員を1人派遣しました。また生協くまもとの店舗・宅配事業再開に向け、コープ春日店支援に1人、宅配事業に1人派遣しました。

日本コープ共済連の要請に、2人がコープ共済の訪問活動を支援するとともに、日本生協連からの「熊本支援職員ボランティア募集」に3人、被災された高齢者・障がい者生活支援の介護職員派遣要請に、社会福祉法人協同福祉会から4人の職員が支援活動に参加しました。

#### ●物的支援

4月、(株)CWSはならコープで商品案内をしている「いきなり団子深吉野よもぎ」の製造者である「(株)俵山交流館萌の里（以下萌の里）」および西原村からの支援要請を受け、物的支援として、保存水や食料、衛生品等30品目（約1,350点）をお届けしました。また5月には避難所となった西原村山西小学校に、食品や日用品をお届けし、萌の里工場設備の

消毒作業支援をおこないました。

(株)奈良コープ産業は、社内での緊急募金に取り組み、経営拠出金と合わせて401,200円を、日本赤十字社奈良県支部にお届けしました。

10月、ならコープは、萌の里周辺の被災地で生産されたさつまいを加工し、ならコープで案内供給することを目的に、焼き芋製造機を贈呈するとともに、11月には熊本県高齢者障害者福祉生活協同組合からの支援要請に応え、福祉車両2台を贈呈しました。

#### ●お見舞い訪問

5月、役職員2人が熊本県を訪問し、産直生産者である肥後農産出荷組合、熊本県生活協同組合連合会、西原村へお見舞い金と、萌の里へは組合員から激励の寄せ書きをお届けしました。特に被害の大きかった肥後農産出荷組合の生産者の方々に、お見舞い金を肥後農産出荷組合の宮本洋一郎代表をつうじてお渡しいただきました。



5.北海道産直生産者(株)丸巳(矢澤農園)お見舞い訪問



6.肥後農産出荷組合生産者お見舞い訪問

## その他の支援活動

8月に発生した連続台風災害は岩手県、北海道に大きな被害をもたらしました。ならコープでは「岩手県・北海道連続台風被害地支援募金」に取り組み、組合員から寄せられた募金948,224円を岩手県生協連と北海道生協連を通じて被災地にお届けしました。また10月には、北海道産直生産者の(有)得地農場、(株)折笠農場、(株)丸巳(矢澤農園)をお見舞い訪問し、職

員募金とお見舞い金、お見舞いの寄せ書きをお届けしました。

10月に発災した鳥取県中部地震において、「鳥取県中部地震災害義援募金」に取り組み、組合員から寄せられた募金と理事会分をあわせて168,808円は、鳥取県を通じて被災地にお届けしました。

## 2016年度 ならコープ災害支援活動

2016年4月1日～2017年3月31日までの組合員募金の状況

1. 東日本大震災目的別募金	募金総額
(1) 福島の子ども保養プロジェクトinなら	1,995,563 円
(2) 福島県生協連主催「福島の子ども保養プロジェクト」	2,334,932 円
合計	4,330,495 円

2016年度災害支援活動費の執行状況

(単位：円)

災害支援活動内訳	金額	お見舞い金内訳	金額
岩手県「遠野山・里・暮らしネットワーク」支援	1,000,000	①熊本地震	
福島支援(「奈良県被災者の会」支援50万円含む)	546,492	熊本県生活協同組合連合会	100,000
東北応援バス	2,319,707	西原村	500,000
岩手県民泊	1,082,711	肥後農産出荷組合	50,000
桜ライン	1,653,487	肥後農産出荷組合生産者6人	600,000
熊本支援(福祉車両・焼き芋製造機など)	7,672,484	②台風被害(北海道産直産地)	
災害支援全般(募金チラシなど)	1,011,091	(株)丸巳	300,000
吉野共生(奈良県南部東部復興)	945,541	(株)折笠農場グループ	300,000
産直産地お見舞い(北海道)	1,229,513	(有)得地農場	300,000
鳥取県中部地震お見舞い	100,000	③鳥取県中部地震	
熊本支援(東北クロッシェ村から防寒具お届け)	1,414,165	鳥取県生活協同組合連合会	100,000
被災地支援集会(3月18日 コープなんごうにて開催)	358,724	④降雪被害(滋賀産直産地)	
		(株)滋賀有機ネットワーク	50,000
累計	19,333,915	合計	2,300,000



1

1. コープなんごうグランドオープン



2. 移動店舗車と葛城市移動市役所の連携運行

## 毎日のくらしを支えます

### 店舗事業

ならコープの店舗は県内に11店舗\*。「地産地消」をすすめる農産品直売所をはじめ、価値あるCO・OP商品やこだわりの商品を多数揃えています。またスマイルポイント、店舗ファンクラブ、すくすくパス、いこいこシニアデー、コープあったか便（お買い上げ商品の配達や買い物代行）、お買い物サイト、買い物支援バス・移動店舗車の運行など、さまざまなサービスで普段のお買い物をサポートしています。

#### コープあったか便

2009年にコープおしくま・コープ学園前からスタートしました。「お店まで行けない」、「たくさん買いたいけれど持ち帰れない」などの声を受け、組合員が生涯ならコープを利用し続けられるように始めました。いこいこシニア会員には、いつでもコープあったか便の利用手数料が無料になるサービスを2014年から開始、「急なケガのため、買い物に困ったが、本当にたすかった」「重い荷物を抱えての買い物帰りが楽になりました」等の声が寄せられています。

##### 【サービス内容】

##### ①お買上商品の配達

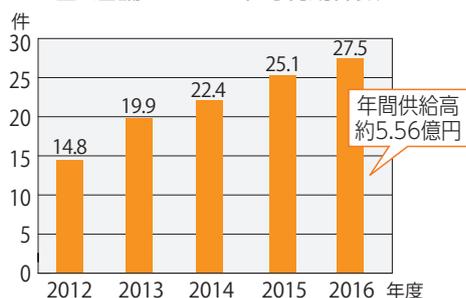
店舗で購入した商品を組合員の自宅へお届け

##### ②買物代行

電話・FAXなどからご注文頂いた商品を自宅へお届け

※冷蔵・冷凍の食品も含め、店舗の全商品が対象

1日1店舗あたりの平均利用件数



#### コープあったか便移動店舗

買い物困難者は県内でも増加傾向にあり、「近所には買い物ができるところがない」、「遠隔地のスーパーを訪れる手段がない」などの声に応え、2014年3月から移動店舗車を運行しています。1号車はコープ学園前を拠点に奈良市・生駒市・大和郡山市・安堵町などを運行し、2号車はコープみなしを拠点に、天理市・橿原市・宇陀市・桜井市・葛城市・東吉野村へ運行しています。葛城市が運行する移動市役所と一緒に運行するなど10市町村との連携がすすんでいます。ならコープは組合員が安心してくらししていけるよう、このような声に応える取り組みを広がっています。

#### コープなんごう出店

コープなんごうはならコープ12年ぶりの新店として11月に開店しました。ながらご利用いただいたコープ真美ヶ丘の移転拡張店舗として、生鮮とおかず、総菜を強化したならコープの600坪タイプ店舗です。キッチンスペースの設置やセミセルフレジの導入、健康を意識した品揃え、地産地消の商品などこだわりの品揃えが特徴です。組合員からは「通路が広くきれいなお店」「買い物に行くのが楽しみ」との声をいただき、1日当り約1,900人の組合員が来店されています。

※11店舗…11月6日に閉店したコープ真美ヶ丘

11月25日にオープンしたコープなんごうを含む



3

3. (一社)かわかみらいふとの宅配事業の協業



4

4. 社会福祉協議会イベントへ参加

### いこいこシニア会員 シニア支援

登録人数:22,573人 (2017年3月末現在)

#### いこいこシニアデー

毎月15日に65歳以上の組合員を対象にお買い上げ金額(本体価格)から5%割引が受けられるサービスです。コープあったか便の利用手数料が、いつでも無料になるサービスも好評で、口コミでも広がり、毎月登録人数が増えています。ご利用額は通常のご利用の約1.5倍となり、シニアの方々に大変喜ばれています。



いこいこシニアマーク

### すくすくパス

登録人数:3,334人 (2017年3月末現在)

0歳から3歳誕生月を迎えるまでの子どもがいる家庭、18歳未満の子どもが3人以上いる世帯の方を対象に店舗で「すくすくパス」を発行しています。

#### 【サービス内容】

- ① 毎月3回お好きなときにお買い上げ金額(本体価格)から5%割引
- ② 「すくすくパス」ご提示で、3歳までのお誕生月毎にバースデープレゼントを進呈



コープすくすくパス

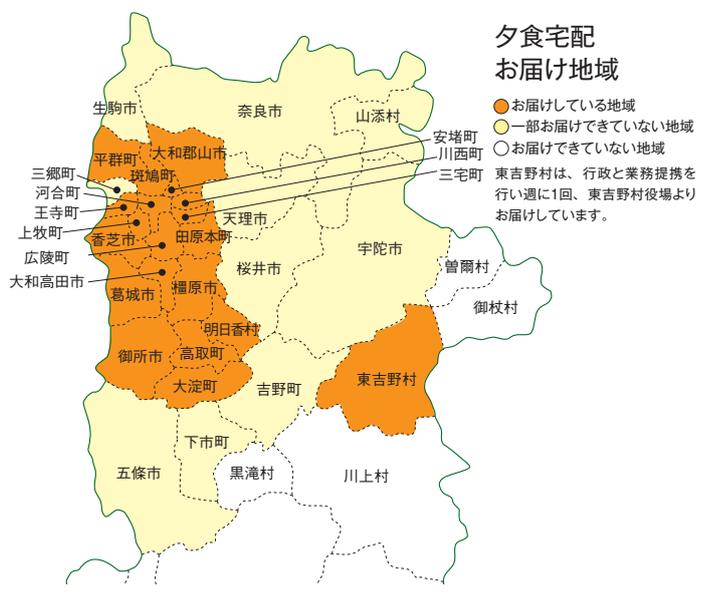
## 無店舗事業

毎週、同じ曜日同じ時間帯に商品をお届けします。毎週お届けする商品案内カタログで注文、翌週にお届けします。県下全域に配達しており、お届け方法は「こまどり便(ならコープ商品宅配便)、共同購入(班)、受取ハウス」と、ご都合にあわせて選択いただけます。またひよこ割引、福祉割引など各種サービスで計画的なお買い物をサポートしています。

### 夕食宅配

7年目を迎えた夕食宅配は、毎日約3,800食のご利用となっています。利用者の声をもとに、組合員、メーカーと一緒にメニュー開発や食味改善をすすめ、12月から夕食宅配のお届けがない土日の冷凍おかずの味付け・メニューを全面リニューアルしました。お届け時に、夕食宅配スタッフが利用者の異常に気づき、行政と連携することで一命を取り留めた事例もあり、地域訪問中の職員や行政とともに地域の見守り活動をすすめています。

夕食宅配における見守り件数は96件(前年88件)となり、年々増加傾向にあります。





5. いこママまるしえ (生駒市) に出展



6. 奈良クラブマッチデーパートナー (11月)

## 行政との見守り協定

行政と連携した見守り協定は、奈良県、奈良市、平群町、香芝市、三郷町、川西町、桜井市、広陵町、葛城市、宇陀市、田原本町、高取町、明日香村、三宅町、生駒市、大和郡山市、橿原市、天理市、御所市、大淀町の20自治体で覚書を締結しています。

## きずな便

県内や県外で離れてくらすご家族や友人に宅配で生協商品をお届けしたいと思う組合員の想いを形にした「きずな便」のサービスは、2014年10月のサービス開始時から2016年度末までのべ3,061名のご利用がありました。  
(2016年度実績：1,078名)

## 地域イベントへの参加

県内や他府県で開催されたイベントにならコープも参加し、商品の試食、支所からのお知らせをおこないました。

また、自治体と連携した夕食宅配の試食会や防災学習会などに参加しました。イベントに来場された方から「コープは知っていたがカタログを見たことがなかったので一度利用を考えたいです」「気になっていたところ、試食させていただきよかったです」などの声をいただきました。

代表的な参加イベント…いこママまるしえ (生駒市)・ペガサスフェスタ (上牧町)・香芝ふれあいフェスタ (香芝市)・平惟盛の大祭 (野迫川村)・ママキッズフェスタ (大阪市南港) など。

## スポーツイベント協賛

10月に「第10回ならコープカップ ドッジボール大会2016」を開催しました。第10回目は最多となる38チーム (昨年36チーム)、選手499名 (昨年499名) が参加しました。当日、選手は、ならコープが提供したTシャツをチーム毎にカラーを変えユニホームとして着用し、日頃の練習の成果を発揮し大盛況となりました。11月には奈良県をホームタウンとし、奈良のためにスポーツ振興する奈良クラブを支援する「奈良クラブマッチデー」を開催しました。当日の、入場者数は年度最高となる2,621人となりました。

## かわかみらいふとの協業

川上村との「水源地の村づくりに関する包括連携協定」(2015年6月)、「東部地区暮らしがつづく集落づくりプロジェクト」(2015年12月)に基づく協働事業として10月から買い物支援事業を開始しました。川上村東部地区での無店舗事業の運用を川上村が運営する「一般社団法人かわかみらいふ」に委託し、商品の配達だけに止まらない住民サービスとして展開しています。村内における雇用とサービスの創出と交流の場づくりを目的とした同法人との協業は全国から注目されています。現在の利用者数は約100人で3人のスタッフが商品配達時に困りごとの解消や見守り活動をおこなっています。2年後には西部地区での事業展開をめざしています。

## ひよこ割引 子育て支援

**登録人数 (案内書発行): 114,518人 (2017年3月末現在)**

子育て層の買い物を応援するため、2015年3月からひよこ割引登録者が自動注文商品を3点以上登録すれば個配利用料金0円でご利用できるよう制度を拡充し、新規加入者に占める子育て層の組合員加入率は44.3%となりました。

※ひよこ割引制度とは…

母子手帳発行後子どもが満6歳の誕生日までの期間、こまどり便の個配システム利用料金を割引し、個配利用料金 (80円+税) のみで利用できる制度です。



第10回ならコープカップ (ドッジボール大会)



1. コープたすけあいの会（車椅子同行学習会）



2. 音声・点字ボランティア&利用者交流会

## 安心してくらしらせる地域づくりのために

### コープたすけあいの会

高齢者家庭や産前産後の家庭の家事援助（掃除、洗濯、料理、買物など）、子育て支援（沐浴、見守り、保育園の送迎など）を、ならコープの組合員同士が協力しあって有償で活動をおこなっています。独居の高齢者が増えてきた1989年に「いつまでも住み慣れた地域でくらしたい、自立した日々をおくりたい」との組合員の思いから誕生しました。2016年度は、活動会員不足を解消するために広報活動に力をそそぎました。特に北・中エリアと連携し学習会やお知らせ活動をおこないました。

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
活動会員数	132	151	129	140
利用会員数(人)	213	208	188	158
賛助会員数(人)	105	107	109	114
会員合計(人)	450	466	426	412
活動総時間	7,256	7,381.5	7,125	6,979
のべ利用件数(件)	1,167	1,202	1,193	1,197

### 食事サービス

組合員ボランティアがメニューを考え、作った食事を地域の高齢の利用者と懇談しながら楽しい一時を過ごす「会食サービス（食事の会）」がコープ六条で開催されています。「配食サービス」はコープ六条、ディアーズコープいこま、ディアーズコープたつたがわで取り組まれ、店舗の調理室から高齢者のご自宅にボランティアが手づくりのお弁当をお届けし、地域の見守り活動としても喜ばれています。

### リーディングサービス

組合員のご自宅や班に注文商品をお届けする無店舗事業（こまどり便や共同購入）は、視覚に障がいがある方にもとても便利なシステムです。商品案内カタログや機関紙を37人の組合員ボランティアが読み上げ録音し、DAISY（デージー）方式のCD-ROMにして利用者にお渡ししています。2016年度は37人が登録されご利用いただきました。

## 地域での子育てを応援します

### 子育て応援・子どもの自立を願って

あらゆる世代による地域での子育てと、すべての子どもの生きる力の育成を新たに重点とした「ならコープ新子育て支援政策」に基づき、子育ての問題を地域全体で考える社会づくりとして、乳幼児の応急手当てや子どものアレルギー、多様な性（LGBT）をテーマにした「みんなで子育て応援講座」を3回開催し52人が参加しました。

#### 【子育てひろば】

「子育てひろば」は、保護者と子どもが気軽に安心して過ごすことができる場として、組合員のボランティアやNPO法人に運営を委託しながら4店舗<sup>\*</sup>とあすなら保育園（子育てひろばあ

すなら）で開催しています。2016年度はのべ927組の親子2,602人が、子育てひろばを訪れました。

※ディアーズコープいこま・コープ学園前・ディアーズコープたつたがわ・コープみみなし

#### 【こども新聞「にじのはし」】

さまざまなテーマについて子どもたちが自ら取材し、年3回発行しました。（通算125号）

#### 【子育て応援サイト「ママ友CLUB」】

ならコープの子育てに関する取り組みやサービス、こども救急電話相談窓口、奈良県ホームページ「なら子育て応援団」、奈良県子育て女性就職相談窓口と連携した情報提供のツールとして開設した子育て応援サイトです。



3.奈良県との「連携と協力に関する包括協定」締結式



4.本部事業棟竣工式

## 事業継続計画（BCP）

災害により甚大な被害が発生した場合でも、生協の事業継続は社会的使命であり、確実に機能させるために事業継続計画やそのためのマニュアル、対応手順の見直しや役職員の教育・訓練は重要な課題です。

ならコープでは事業継続推進委員会を常設し、2016年度は、ならコープグループ役職員の訓練を「情報受信訓練の強化」「防災備品を用いた試用訓練」「家庭内防災力の向上」をテーマに実施しました。また、BCP手順の見直しや、自治体とのコミュニケーションを強化しました。

## 行政・自治体、他団体との連携

### 「奈良県との連携と協力に関する包括協定」の締結

4月、奈良県と「連携と協力に関する包括協定」を締結しました。この協定は、奈良県と「高齢者の生活支援に関する連携協定」（2011年3月）を結び、高齢者世代・子育て世代・障がい者世帯など、だれもが安心してくらせる地域社会をめざして、行政や地域の諸団体との協働しながら取り組みをすすめてきました。締結から5年を迎え、高齢者の生活支援にとどまらず、幅広い分野での連携・協力をおこなうことを目的としています。

#### 「連携と協力に関する包括協定」にもとづく 具体的な連携事業（18項目）

- ① 高齢者および障害者支援 ② 女性・子育て支援 ③ 子ども・青少年健全育成 ④ まちづくり ⑤ 医療・健康増進 ⑥ 教育・文化・スポーツの振興
- ⑦ 安全・安心、防災・防犯 ⑧ 環境・エネルギー対策 ⑨ 農林業振興
- ⑩ 地産地消の推進 ⑪ 県産オリジナル商品の開発・販売 ⑫ 県産品の販路拡大
- ⑬ 県南部東部の振興 ⑭ 観光振興 ⑮ 雇用・産業振興 ⑯ 人材育成
- ⑰ 県政情報発信 ⑱ その他、地域社会の活性化や県民サービスの向上

### 「災害時における物資供給等に関する協定書」は奈良県を含むすべての自治体と締結

自治体との「災害時における緊急支援物資協定」は、県を含めすべての自治体（40自治体）と締結しており、行政との連携をすすめました。定期的な各自治体窓口との連携とともに、自治体の防災訓練に参加しました。



葛城市防災訓練へ参加

### 社会福祉法人協同福祉会との連携

1999年に組合員、お取引先、職員などから3億7千万円の募金が寄せられ、特別養護老人ホームあすなら苑が建設されました。現在、19施設が開設され地域福祉拠点の広がりとともに、多数の組合員が施設でボランティア活動をおこなっています。ならコープでは、協同福祉会の地域福祉活動を支えるため、コープ福祉募金に取り組んでいます。2016年度は「あすならハイツ恋の窪」開設と「コープたすけあいの会」の活動支援とする福祉募金に193万8,925円が寄せられ、うち143万8,925円（50万円はコープたすけあいの会の活動支援に充当）を贈りました。また、協同福祉会では子育て支援の取り組みとして「あすなら保育園」も運営しています。

#### 社会福祉法人協同福祉会

本格的な高齢者福祉活動に取り組むため、ならコープ組合員をはじめ多くの市民が参加して創立された社会福祉法人。特別養護老人ホームあすなら苑をはじめとして、ショートステイ、デイサービス、小規模多機能型居宅介護施設、サービス付高齢者住宅とあすなら保育園をあわせて19施設を運営しています。

### 奈良県医療福祉生協との連携

奈良県医療福祉生協みなし診療所は、ならコープ役職員の健康診断（268人）と出張予防接種（879人）を実施しました。地域では、ならコープ主催のイベントならびにエリアやならコープネット企画での健康チェック・健康講座を実施し、啓発活動に取り組みました。



1.食育イベント



2.田植え体験

## 組合員と広げる商品、くらしの活動

組合員が安心して食生活を送ることができるように、さまざまな取り組みを通じて、食べ物を大切にする気持ち、食事の大切さ、栄養バランス、食品のルーツを知る、調理技術を身に付けるなど、消費者の食に関わるスキルアップにつなげていくことが生協の役割の一つでもあると考えて「たべる、たいせつ」に取り組んでいます。

### たべる、たいせつ（食育）の取り組み ～安心・安全の取り組み～

ならコープは、組合員一人ひとりが食について学び、生産と消費をつなぎ、くらしを向上させることを商品政策の大きな柱としています。組合員が安心して食生活を送ることができるように、組合員自身が商品の成り立ちや生産、製造過程を実際に見たり、学習したりすること、生産者や取引先との交流を通じて食についての関心や知識を高めることをめざしています。2016年度は各エリアとならコープネットで「たべる、たいせつ」に取り組み、3,082人が参加しました。

#### ●たべる、たいせつフェア

##### 「たべる、たいせつ」のイベント（6月～3月）

##### 11会場、3,082人の参加

各エリアは取り組みテーマを設定し、組合員や行政、取引先、関係団体と工夫を凝らした発表や展示、体験に取り組み、食について考える機会としました。



たべる、たいせつフェア

### 生産者との交流

#### ●バケツ稲づくり体験（6月・10月）

会場：ディアーズコープたつたがわ

協力：岩手県経済連・ライスフレンド(株) 19人の参加  
お米づくりの話、土づくり体験、稲の脱穀体験、お米の試食と交流をおこないました。

#### ●明日香村で田植え（6月）、稲刈り体験（10月）

場所：明日香村

主催：地産地消をすすめる会 7家族34人の参加

JAならけんとならコープによる「地産地消をすすめる会」では、地元のお米「ヒノヒカリ」をもっと知ってもらいたい、ならコープの「たべる、たいせつ」を広めたいと考え、6月に田植え体験を企画しました。10月には稲刈り体験もおこない、新米の試食をしながら食育について体験しながら学ぶ機会となりました。

#### ●夏休み生協牛乳のふるさと体験ツアー（7月）

大内山酪農農業協同組合（三重県） 20人の参加

ならコープ産直第1号商品である生協牛乳のふるさと大内山酪農を訪れ、牛舎、工場の見学、生産者との交流をおこないました。

#### ●さつまいもの収穫体験（9月）

場所：奈良市大柳生 協力：JAならけん 23人の参加

「地産地消をすすめる会」主催で、県内の耕作放棄地を活用して栽培している地元のさつまいもの収穫体験を開催しました。栽培したさつまいもは商品としても組合員にご利用いただきました。

#### ●お米キャラバン（11月）

JAピンネの生産者が北海道から来訪され、お米キャラバンを西奈良支所、コープおしくま、コープ学園前で開催し、組合員との交流をおこないました。



3 4

3.さつまいもの収穫体験



4.防災学習会

## 商品を通じての交流

### ●産地・工場見学（通年）

37企画 1025人の参加

ならコープネットを中心に、商品の産地工場の見学会を開催しました。

### ●商品学習会の開催（通年）

132企画 2,466人の参加

ならコープネットを中心に、商品の産地や工場の見学会、生産者・メーカーを招いての学習会を開催しました。

### ●商品試食展示学習会（5月）

会場：けいはんなプラザ・イベントホール

出展協力：59団体 2,500人の参加

ならコープ共栄会が主催、ならコープ産直商品やコープ商品の試食・学習と即売をおこないました。

### ●産直交流会（2月）

会場：奈良ロイヤルホテル

協力29団体 185人の参加

産直商品の生産者と組合員が会し、産直の取り組みや生産者の想い、組合員の願いを直接交流する場として産直交流会を開催しました。これからの課題と5年後、10年後を見据えた産直提携のあり方などを参加者で確認し、産直品を使ったランチを囲み交流と「産地直結」への理解を広げました。



夏休み生協牛乳のふるさと体験ツアー



吉野川分水見学ツアー



バケツ稲づくり体験



コープ・ラボ見学（たべる\*たいせつキッズクラブ）

## 学びあいと教えあい

### ●たべる\*たいせつキッズクラブ

29人の登録

子どもたちが、「キッズブック」や家庭で食について学んで提出した「おたよりカード」に、サポーターから返事をする通信型の食育サポートプログラムに取り組みました。夏休みには商品検査センター「コープ・ラボ」を見学しました。

### ●子ども料理教室

35回 278人の参加

小学3年生以上を対象に、作る楽しさ、食べる喜びを伝え、健康で豊かな食生活を送ることができる大人に成長してほしいとの願いから開催しました。

### ●吉野川分水見学ツアー（7月）

14人の参加

JAならけんとならコープによる「地産地消をすすめる会」で吉野川分水見学ツアーを毎年実施しています。米作りに欠かせない“水”。その昔、県内の主要水田地帯である大和平野は雨量が少なく、深刻な水不足が問題でした。吉野川分水がどのようにして大和平野に引かれているのかななどの分水のしくみを、ツアーをつうじて学びました。

### ●消費者課題、学習

生協はじめてましてHELLO ならコープ講座

新規に加入された方を対象に、ならコープのお気に入り商品を見つけてもらう、くらしに役立てていただくことを目的にコープなんごうで「生協はじめてましてHELLOならコープ」講座を3回連続で開催しました。講座では参加者に商品を調理したり、また地元の取引先見学もおこないました。

### ●防災学習会

10月、恋の窪本部にて防災学習会を開催し、コープネットメンバー、あすならハイツ恋の窪入居者にも参加を呼びかけ、80人が参加しました。「その時あなたはどうしますか？」をテーマに日本赤十字社の応急手当てなどの実践練習と、ならコープの防災の取り組みやかまどベンチを使ったカレーの試食と防災備蓄の保存食100食の販売をおこない、売り上げの10,401円を「岩手・北海道連続台風被害地支援募金」に充てました。



5

5.なんごうフェスタ



6

6.健康連続講座

## 健康づくり

### ●ならコープ健康講座

奈良県医療福祉生協と共におすすめの学びの場として、「免疫力を高めよう」、「認知症」、「更年期障がい」をテーマにならコープ健康講座「すこやかな毎日シリーズ」を開催し、のべ68人の参加がありました。

### ●コープ歩く会、史跡めぐりグループ

組合員の健康づくり、歴史や文化に触れることへの要求にこたえて、1990年にスタートした「コープ歩く会」は、2016年度113人の登録となり、年間で8回実施しました。歴史を学びながら史跡をめぐる「史跡めぐりグループ」には349人の登録があり、年間6回の史跡めぐりを4コースに分かれておこなわれました。



史跡めぐり

## くらしの安心

### ●消費者問題

#### 安心してらせる地域づくり

4月竣工の本部事業棟「あすならハイツ恋の窪」を拠点とした、居場所や集える場づくり、地域ニーズの把握をすすめるために、コープたすけあいの会、社会福祉法人協同福祉会、奈良県医療福祉生協とともに「恋の窪運営協議会」を毎月開催し、地域の状況や事例の共有、今後の取り組みについて協議をすすめました。地域住民を対象に「あすなら福祉学習会」を月1回開催し、118人が参加しました。

#### 次世代に向けた取り組み

県内で取り組まれている子ども食堂（こども食堂いかるが、CoDoMo食堂上牧、大和八木子ども食堂、ぽっちぽっち食堂（香芝市下田東））の支援として、お米やたまご（予備、交換品）を提供しました。12月の生協大会は「ひとりぽっちをつくらない～子どもたちの未来と共生社会を考える」をテーマに開催され、多くの役職員が参加しました。

### ●くらしの法律相談

くらしの中で困っている法律に関わる諸問題の解決に向けたお手伝いとして、2016年度は弁護士の協力を得なが

ら10回開催し、56人の相談がありました。相談者からは「生協にこの取り組みがあることを知ってたすかった」との声をいただきました。

### ●ライフプランニング活動

#### 【LPA（ライフプランアドバイザー）の会】

ならコープLPAの会では、組合員にライフプランニングの大切さを伝え、一人ひとりが自分の人生をデザインできるようにお手伝いをします。くらしの見直し活動は、講演会、ライフプラン講座（賢い主婦の働き方、エンディングノートを書いてみよう、プラチナ世代のお金の話、キッズカンパニー）などをおこなわれました。

### ●新店づくり活動

コープなんごうの出店にむけて、新店開設委員会と、「コープなんごう盛り上げ隊」、中・南エリア会メンバー、役職員が、地域訪問（8,431件）によるお誘い活動をおこなっていました。また地域の公民館での試食会（8回実施、のべ参加167人）、地域イベントの参加やオープン前の大試食会「なんごうフェスタ」では大人も子どもも楽しめるブース出展をおこない、お知らせ活動をすすめました。



1.ミャンマースタディーツアー報告会(コープ真美ヶ丘)



2.ヒロシマの旅(8月)

## ユニセフ・平和活動

### ユニセフ活動

開発途上国や紛争地の子どもと女性を支援するため、ならこープでは1984年にユニセフ募金活動がスタートしました。1996年から20年間はラオス指定募金に17の生協と一緒に支援してきました。2015年度からは、ミャンマー指定募金として、「女性と子どものための栄養支援プログラム」に支援しています。2016年2月ならこープボランティアグループ「withユニセフの会」代表の杉木愛子さんがユニセフ・ミャンマースタディーツアーに参加され、各エリアで報告をしていただきました。

2016年度寄せられたユニセフ募金額は136万6,150円となり80万円はミャンマー指定募金に、56万6,150円は一般募金として3月に日本ユニセフ協会に送金しました。

#### ●ユニセフ募金

ユニセフ募金2016年度募金総額	1,366,150円
(ミャンマー指定募金)	800,000円
(一般募金)	566,150円
1984年度～2016年度 計	109,762,668円

### 平和活動・被爆者救援募金

戦争のない平和な社会は、「くらしの安心」の基本です。ならこープでは創立以来「平和な社会づくり」のための活動を継続しています。

毎年、被爆地ヒロシマを訪れ、戦争の悲惨さと平和の尊さを学ぶ「ヒロシマの旅」(8月)に15人が参加しました。旅のなかでは原爆被害者相談の会と夕食交流会をおこない、また「広島原爆養護ホーム舟入むつみ園」を運営する、広島原爆被爆者援護事業団の方々に被爆体験をお聞きし、両団体に被爆者救援募金を贈呈しました。

また、ピースアクションをすすめる会と連携しピースアクションinならこープ2016「わたしたちの未来の選択!～核兵器のない平和な世界～」をテーマに開催しました。

2016年3月に開催された、日本生活協同組合連合会と沖縄県生活協同組合連合会による「第33回沖縄戦跡基地めぐり」にならこープから2人の組合員が参加しました。沖縄戦の実際の様子と現在の沖縄が抱える基地問題を学び、平和について考える機会として、各会議や平和学習の場で報告会をおこないました。

また憲法について身近に考える機会として、各イベント会場

での「平和・憲法の絵本コーナー」を設けるとともに、より関心をもってもらうために「憲法って何だろう?アンケート」に取り組みました。



平和のつどい(平和・憲法の絵本展示)

#### ●被爆者救援募金

2016年度募金総額	526,297円
1984年度～2016年度 計	87,053,745円

#### 2016年度被爆者救援募金寄贈先

寄贈先	2016年度
原爆被害者相談員の会	326,297円
広島原爆被爆者援護事業団	140,000円
広島赤十字・原爆病院	20,000円
日本赤十字社長崎原爆病院	20,000円
日本原水爆被害者団体協議会	20,000円
合計	526,297円



1.微生物検査



2.安心安全業務監査委員会

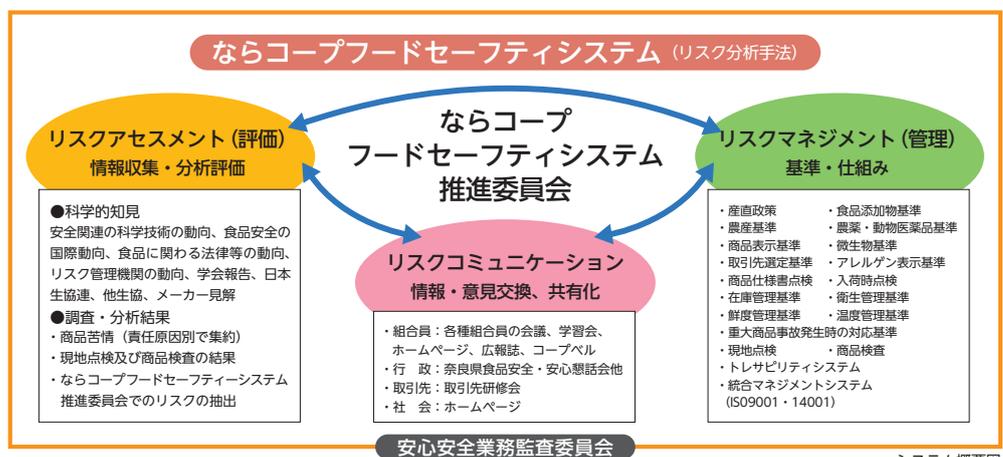
# 食の安全を確保する仕組みをより確かなものへ

ならコープでは組合員に確かな商品をお届けするために、リスク分析手法に基づき独自のフードセーフティシステムを構築し取り組んでいます。

## フードセーフティシステムとは

食品の原料から消費までの全過程で発生するリスク評価を行い、項目を決めて、継続的に管理・監視するとともに組合員や取引先などへの情報提供・意見交換を行うシステムです。

まずは起こりうるリスクについて、最新の科学的知見（国の見解、日本生協連やコープきんきの見解、専門家の文献など）を参考に分析・評価し、「商品政策」をはじめならコープ独自の基準や仕組みを作り実践してきました。また、これらの政策や基準は、最新の評価に基づき適時見直し、改定しています。さらにこれらの取り組みや新たな施策を組合員、消費者をはじめ取引先の食品企業にも開示・協力を願ひ、国や行政に対して同様の取り組み実施を要請することにより情報提供・意見交換をすすめています。



### ●安心安全業務監査委員会

組合員に対する安心安全業務の保証に貢献することを目的に、安心安全業務監査委員会（外部有識者、非常勤理事、ならコープ役職員で構成）を5月、10月に開催しました。

安心安全業務監査委員会は、ならコープが構築し運営している「ならコープフードセーフティシステム」がうまく機能しているか、システムに不足な点はないか、新たなリスクが存在しないか客観的な評価を取り入れ監査・検証しています。

### ●コープウォッチャー

組合員がいつも利用するコープ店舗の商品表示を点検するコープウォッチャーの活動は、35人が登録しテーマに沿って月1回の点検に取り組みました。

### ●組合員による取引先点検

組合員が職員とともに取引先を訪れ、商品の製造工程や管理状況を確認します。点検の中で出された「気になる点」など、相互に意見交換をおこない、より安心な商品づくりに取り組みました。



1

1.店舗表示点検（コープみみなし）



2.奈良県HACCP自主衛生管理認証制度認証式

## 安心・安全をお届けする義務として

### 安心・安全をお届けする義務として

#### ●ならコープ独自の検査体制

組合員に確かな商品を提供するため、ならコープ独自の検査体制を整え、無店舗・店舗で取り扱う前の新規商品検査と供給している商品の抜取検査、グループ会社の(株)奈良コープ

プ産業、(株)CWS、(株)ハートフルコープよしので製造している商品の検査、その他産直卵の鮮度判定や鶏舎の拭き取り検査などをおこなっています。

	無店舗新規	無店舗抜取	店舗新規	店舗抜取	出荷検査	保存検査	その他	合計
微生物検査	1,381	4,552	1,876	2,219	2,022	297	709	13,056
理化学検査	340	2,740	977	1,074	0	0	24	5,155

※その他内訳 微生物709（苦情品49検体、鶏舎拭取268検体、液卵95検体、店舗拭取218検体、開発前商品16検体、工場拭取41検体、組合員活動関連の検査22検体）  
理化学 24（クドア顕微鏡検査：一般量販店での購入品24検体）

#### ●取引先点検

取引先点検は、取引先と確認した「商品仕様」通りに、品質管理・衛生管理が実施されているかを確認するもので、その結果は取引先にも有用な情報となります。工場の衛生状態、防虫対策、薬剤管理などを確認し、必要に応じて改善を要請します。また、検査結果や商品苦情などから、再発防止策の実施状況も確認します。2016年度は、60社76回の取引先点検を実施しました。ならコープ11店舗の衛生点検を実施し、

不具合は都度是正し、衛生管理を強化しています。また、農産、水産、畜産商品の表示内容などを点検しています。品質保証部による表示点検は全店でのべ174回、衛生点検は39回実施し、表示と衛生管理強化に努めました。商品を知って知らせる取り組みとして、ホームページに「ならっぴ探検隊」のコーナーを設け、「商品の食べくらべ、おいしい食べ方」、「さしすせその会」（地域担当者の料理教室）などを掲載しています。

### ならコープグループ(株)奈良コープ産業が、ならハサップ認証施設に認定

12月、奈良県庁において、一昨年施行された奈良県HACCP自主衛生管理認証制度（通称：ならハサップ）創設後、初めての認証式がおこなわれました。ならコープでは（公社）奈良県食品衛生協会と協力し、2014年2月に特定非営利法人奈良県HACCP研究会を立ち上げ、奈良県行政と連携しながら「ならハサップ」の制定を求めてきました。この度の「ならハサップ」には(株)奈良コープ産業をはじめ、夕食宅配の製造委託をしている(株)味の和路、(株)牛信、イシメン(株)、(株)丸秀食品の5施設が初認証されました。ならコープは今後も、県内の品質管理水準の向上をはかるとともに、食品衛生管理の国際的な標準システムであるHACCP手法の普及をめざし、県行政と協力しながら県内の食の安心、安全の普及、啓発に取り組みます。

#### ●ならハサップ認証施設（5施設）

- 株式会社奈良コープ産業（食品の冷凍又は冷蔵業）
- 株式会社味の和路（飲食店営業）
- 株式会社牛信（食肉処理業）
- 株式会社丸秀食品（食肉製品製造業）
- イシメン株式会社（めん類製造業）

※HACCP：原料の入荷から製造・出荷までのすべての工程において、あらかじめ危害を予測し、その危害を防止するための重要管理点を特定して、そのポイントを継続的に監視・記録し、不良製品の出荷を未然に防ぐ、国際的にも認められたシステム。



3.mamatocoプロジェクト会議



4.ならモニ（コープくらしモニター）学習会

### 組合員とともにすすめた商品開発

子育て層向けの商品開発は「mamatocoプロジェクト」をもとに、子育て中の組合員（育児休業中職員含む）10人が、引き続き新商品の開発に取り組みました。「お魚を子どもに美味しく食べさせたい」との思いをもとに、自分たちで商品名、パッケージ、形状まで考えた「ぶちっち・じゃこっこ（ごはんのおともだち）」が2017年7月にデビュー予定です。

また「ならモニ（コープくらしモニター）」では、モニター組合員から商品アンケート、学習会をつうじていただいた意見や声を商品企画や商品案内に生かすとともに、コープの商品や取り組みを知っていただく機会として活動をおこないました。



おやつかすたら



ぶちっち・じゃこっこ  
（ごはんのおともだち）

※「mamatocoプロジェクト」：子育て中のコープ組合員による、自分たちが「あったらいいな」と思う商品を開発する取り組み。

### ならコープの産直（産地直結）「よりおいしく」「より安く」「より安心」

ならコープ組合員と生産者・生産者組織が、よりよい生鮮品などの供給を通じて、お互いの生活向上をめざす「産地直結」の産消提携運動です。

#### ●ならコープ産直がめざすもの

- 組合員・生産者にとってより安心・安全な生産物作りをめざします。
- 産直品を通じて、組合員の食生活向上と産直生産者の

経営の安定をめざします。

- 産直商品の利用をひろめ産直運動を通じて日本の農業振興をはかり、食糧自給率向上に貢献します。
- 持続可能な生産と環境に配慮した生産・流通をすすめます。
- 組合員と生産者との交流を通じて相互理解を高め、より良い産消提携関係をめざします。

### 2016年度産直事業まとめ

産直商品の供給高は前年比101.3%、利用点数99.8%となりました。業態別には無店舗事業100.9%、店舗事業102.2%と伸長しました。産地・商品開発では4品目の開発、1品目の廃番となり、計115品目が産直商品となりました。組合員と生産者の交流では、毎年好評な「産直交流会」「産地訪問」を開催し、組合員と生産者の相互理解に努めました。また、社会的な取組みとして「食糧・農業問題」を課題とし、飼料稲の拡大、飼料米の年間給餌の継続、ハートフルコープならの堆肥を県内2産地への供給を前年に引き続き継続しました。産地支援と職員が農業問題を考えるためにはじめた「農援隊」は12回実施し、のべ182人（子ども26人）の参加があり、職員として産地の状況を実体験する機会となっています。

	2014年度	2015年度	2016年度
供給高	約22億8,600万円	約22億6,700万円	約22億9,700万円
提携先	69	72	72
取り扱い品目数	110	112	115
適正規範点検	57	53	57
残留農薬検査実施	105品目125検体	102品目139検体	103品目128検体



瀬戸内ネーブル



コープなんごう直売所



農援隊



1 コープベル



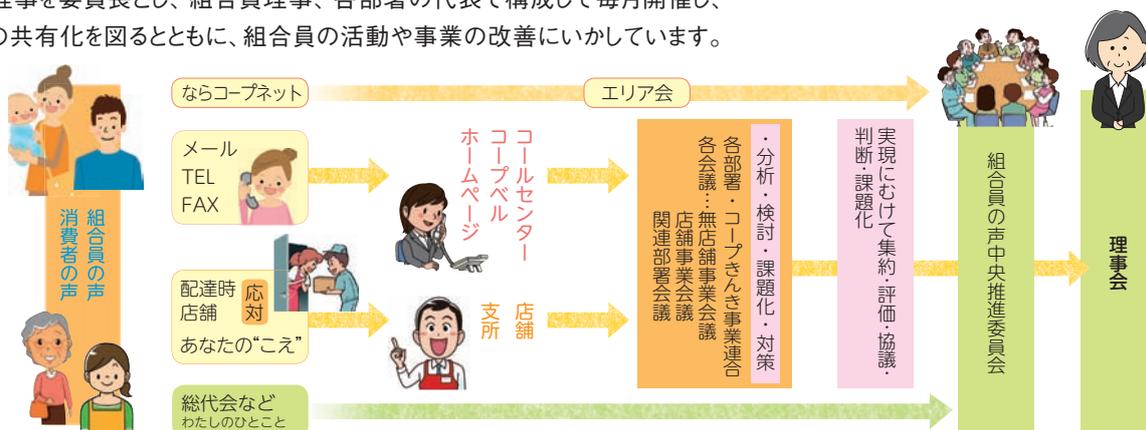
2.組合員のつどい「コープネット 西の京」

# コミュニケーション

組合員の声を聴き、暮らしに寄り添う ～組合員満足への取り組み～

## 組合員の声中央推進委員会

専務理事を委員長とし、組合員理事、各部署の代表で構成して毎月開催し、全体での共有化を図るとともに、組合員の活動や事業の改善にいかしています。



## 組合員のつどい

189会場 参加4,182人

2016年度テーマ「コープの良さを伝えよう～暮らしに役立つならコープ～」とし、安心してらせる地域づくりのために、地域での困りごとを共有しました。ならコープの利用を通じて、組合員ひとり一人の困りごとの解決となるように、暮らしに役立つ事業・活動を紹介しながら交流する場としました。参加を通じて、組合員同士、組合員と職員が学び・交流し、寄せられた感想や意見などから生協への理解や組合員満足が高まりました。また、職員は参加者と積極的に交流し、組合員の声や地域の要望などをつかむ機会となっています。

## コープ会（通年）

登録：181グループ 764人

定期的に生協から届く商品とくらしや商品の情報を基に学び、語り合う場所として開催しました。

## コープベルとコールセンター

組合員の商品に対する苦情や意見の問合せの窓口として開設しているコープベルでは、商品や接遇・対応についてのご意見、消費者問題でのご相談、くらしのお悩み、夕食宅配に関する問い合わせなど、2016年度は636件の声が寄せられました。また、無店舗事業のご注文と配達に関する問い合わせ窓口であるコールセンターには376,566件のご注文とお問い合わせをいただきました。

## 声の受付件数

受付部署	2014年度	2015年度	2016年度
無店舗事業：配達担当者へのお申し出	775	748	701
店舗事業：「あなたの声」	552	486	616
コールセンター	392,271	385,001	376,566
コープベル	765	647	636
あをがき：はがき等	7,090	6,424	6,233
ホームページ	111	151	167
商品苦情	2,602	2,323	2,074



1

1.幹部会議での男女共同参画学習会



2

2.夏休み子ども参観日

## 広報活動

機関紙「あをがき」は、組合員が参加する「あをがき企画会議」で決定された編集方針・企画を元に制作され、毎月約130,000部を発行しました。

「エリアニュース」は、北・中・南エリアそれぞれの、地域に密着した活動や情報を、各エリア会が毎月発行しました。

組合員の代表である総代に、ならコープの取り組みを知らせる総代通信「COOPNOW」を毎月発行しました。

ホームページの改善とタイムリーな情報発信をめざし、2016年度は263回の更新をおこないました。マスコミ等には適時ニュースリリースを行い、65回の新聞掲載がありました。また店舗ファンクラブは新店応援団を含め登録キャンペーンに取り組み、18,843人の登録となり、認知度と情報発信が広がりました。

# より良い職場をめざして

## コンプライアンス・働きやすい職場

**基本理念** ならコープグループは、自助、自己責任、民主主義、平等、公正、連帯を基本的価値とし、正直、公開、社会的責任そして他人への配慮という倫理的価値を信条とします。

### コンプライアンス委員会

理事会の諮問委員会として、学識経験者理事（弁護士）を委員長に、社会保険労務士（外部学識者）、理事、職員で構成しています。倫理法令遵守方針に基づく取り組みの進捗点検、ヘルプラインへの相談状況、コンプライアンス対応や個人情報保護、情報セキュリティを議題に4回開催・審議しました。

### 個人情報管理・情報セキュリティポリシー

「個人情報保護に関する対応方針」にしたがって、個人情報管理の意識を高め、漏洩・目的外利用防止の管理レベル向上に取り組んでいます。コンプライアンス業務推進委員が事業所巡回を実施し管理状況の点検と是正をおこないました。2017年に施行される個人情報保護法の改定に対応するための準備をすすめました。

### ヘルプライン（内部・外部相談窓口）

全役職員・社員が組織の行動規範とヘルプラインを示したコンプライアンスカードを携帯しています。ヘルプラインは内部相談窓口と外部相談窓口を設け、外部相談窓口は公益者通報保護法の観点から、登大路総合法律事務所の深水弁護士の協力を得て、対応いただいています。

内部相談窓口に1件・外部相談窓口に2件の相談があり是正対応しました。「組織の自浄機能」として有効に働いていると判断しています。

2010年から継続して開設するお取引先専用のコンプライアンス相談窓口への相談件数は0件でした。



3 4

3.ならコープグループ入協・入社式(4月) 4.新人研修(外部研修:嵯奈良ロイヤルホテル)

## 男女がともにいきいきと働ける職場(男女共同参画の取り組み)

男女がともにいきいきと働くことができる社会づくりをめざし、職員が仕事と家庭を両立できるように、多様な視点から男女共同参画に取り組んでいます。

2015年度策定した第五期男女共同参画中期計画を実行し、トップマネジメントとして「男女ともに一人ひとりが誇りを持って働き続けられる職場の実現」をめざし、男女共同参画の取り組み強化をしました。

### 重点課題

【就労先として選択され、力を発揮し、発展し続けられる組織】

- (1) 多様な働き方により安心して働き続けられる組織づくり
- (2) 意識改革と推進体制基盤の強化
- (3) 全ての人々がふだんの暮らしの中で安心して生活し、お互いの価値観を認め合い、活躍できる社会をめざし、学び合う場づくりをすすめる

### 次世代育成支援と女性の活躍推進

次世代育成支援(仕事と子育ての両立支援)やワークライフバランスについて、組織内での啓発活動をすすめ、時間外労働の削減など、働きやすい職場づくりをめざしています。

子どもが親の職場を見学・体験することで働き方を考える「夏休み子ども参観日」を2011年度より毎年継続して実施するとともに、幹部職員及び組合員理事を対象にした「危機の時代の経営管理」—企業の社会的責任と人権—をテーマに学習会をおこないました。また、7月7日の七ター斉ライトダウンを皮切りに毎月7日をノー残業デーとしました。また育児休業取得者へ人事総務部と面談をおこない自身のキャリアについて考える機会を設けました。

※ならコープは、2008年に「次世代育成支援対策に取り組む企業」として“くるみん”マークの認定を受けています

### 職員のやりがいと活躍できる環境づくり

多様な働き方を相互理解し、やりがいを持って笑顔で働き続けられることを目的に、5月よりパートナー制度を創出しました。パートナー職員は無店舗・店舗の現場で勤務する職員が業務の習熟に応じて昇給することが大きな特徴です。また、同時にエルダー職員およびプラチナ職員の雇用区分をあらたに設け、エルダー職員は60歳以降も経験を生かした就労が可能となるように、プラチナ職員は65歳以上の職員が最長70歳を迎えるまで勤務できるようにしています。

1月からは職員の長期的な活躍を目的に、労働契約法に先んじて勤続5年以上のパートナー職員・パート職員・アルバイト職員を対象に無期雇用契約への転換を実施し、3月末で314人の申し込みを受け付けました。



3.無期雇用転換通知式



5.株式会社ハートフルコープよしの



6.労理シンポ共催生協シンポジウム

## 互いに認め合い、学び合える人づくり

2016年3月に職員意識アンケートを実施し、ならコープの職員は目の前の仕事に責任を持つことでやりがいにつながっている一方で、成長意欲を持ってより高度な職務にチャレンジしていく気風に欠ける傾向が明らかになりました。自ら学び続ける組織をめざし、能力開発制度である「ならコープビジネススクール」は内容の見直しを随時行っている他、採用時研修やフォロー研修などの階層別研修、水産・畜産技術検定などの役割別研修、職務上の知識や技能を習得するための目的別研修、幅広い層に参加を呼びかける農援隊などの体験教育、また自己のキャリア開発のために通信教育や資格取得奨励制度にも取り組んでいます。また、人材育成を目的とした上司による面接や日常のOJT\*を強化するため、管理者研修を重点的に実施しました。

\*OJT…On-the-Job Training  
企業内で行われる企業内教育・教育訓練手法のひとつ

## 多様な人材を

特例子会社(株)ハートフルコープならに続き、就労継続支援A型事業所として設立した(株)ハートフルコープよしのが5月から宅配水の製造販売や水耕栽培の事業を開始しました。法律の趣旨に沿って積極的な障がい者雇用をすすめ、ならコープ、(株)ハートフルコープならと(株)ハートフルコープよしのの雇用率は4.09%となりました。(法定雇用率は2.0%)

※就労継続支援A型事業所とは、障害者総合支援法に基づき「就労の場」を設ける施設です。一般企業への就職が難しい障がい者に就労機会を提供するとともに、生産活動を通して、その知識と能力の向上に必要な訓練などの障がい福祉サービスを提供することを目的としています。



(株)ハートフルコープよしの  
入社式

## 労働組合とのパートナーシップ

必要に応じて労働組合執行委員会との協議会を開催し、労使間のコミュニケーションを深めています。

また、労働組合と理事会で共催するシンポジウムは、全国的にも珍しい取り組みです。役職員・理事みなんでどうすればイキイキ働けるかなど、みんなで本音を出しあう場として実施し、2016年度で27回目の開催となりました。2016年度は「組合員活動を学ぶINコープなんごう」をテーマに、コープなんごうでの組合員活動「ルーツdeしょくみケーション」への参加とあわせた体験型の取り組みとなりました。



## 部内報「ならこむ」の発行

円滑なコミュニケーションを図るため、ならコープ役職員(総合職員、専任職員、嘱託職員、パート職員・アルバイト職員)とならコープグループの社員・職員を対象に、部内報「ならこむ」を毎月発行しています。



部内報「ならこむ」



1

1.アースデー in なら 2016



環境活動報告

2.田原本物流センター東棟 低温センター

## 環境活動報告

地球温暖化をめぐる社会情勢は大きく変化し続けています。2015年の気候変動枠組条約第21回締約国会議（COP21）で「パリ協定」が採択され、これによって、先進国・途上国にかかわらず、すべての国が温室効果ガスの排出削減に取り組むこと、そして産業革命前からの気温上昇を2℃より低く抑制し、1.5℃未満とする目標が掲げられました。ならコープは、「2020年に向けた新たな環境政策」で創立以来の基本方針を確認し、奈良県の豊かな自然と文化を守り次世代の子どもたちに引き継ぐため環境にやさしい地域づくりをすすめています。

### 事業活動における環境配慮の取り組み

#### ① 二酸化炭素排出量削減の取り組み

地球温暖化防止の取り組みとしてならコープでは、2020年度の温室効果ガス排出総量数値目標を、2005年度対比30%の削減をめざしており、2016年度は2005年度対比5.5%削減（前年は19.4%削減）の到達となりました。2016年度のCO<sub>2</sub>排出量が増加したのは、外部に委託してきた物流機能を自前でおこなうための田原本物流センター東棟低温センターの稼動に伴う電気使用量の増加、増加した電気使用量を自家発電設備の発電電気でもまかなったことによるA重油使用量の

増加、コープなんごうの出店があげられます。田原本物流センター稼動により子会社の(株)CWSでは、物流拠点との輸送削減（1,622便）効果で120t-CO<sub>2</sub>の削減となり、地域での温室効果ガス削減に貢献しました。またコープなんごうは、環境配慮型店舗として出店し、冷蔵・冷凍ケースは自然冷媒（CO<sub>2</sub>冷媒）使用によるフロンガス漏洩の防止と電気使用量削減、太陽光発電設備の設置をおこない、発電した電気をCO<sub>2</sub>排出量ゼロの電気として店内で使用し、同店舗の電気使用量を削減することができました。

#### (1) 事業活動でのエネルギー使用による二酸化炭素排出量

項目	係数	単位	2016年度 計画	2016年度 実績	計画比	計画差	前年差	前年比
電気		kWh	20,416,918	18,688,013	91.5%	-1,728,905	1,768,820	110.5%
A重油	2.71	リットル	40,351	333,742	827.1%	293,391	297,466	920.0%
ガソリン	2.32	リットル	96,166	95,577	99.4%	-589	-7,640	92.6%
軽油	2.62	リットル	297,203	293,936	98.9%	-3,267	-5,395	98.2%
LPG	1.68	リットル	2,910	2,646	90.9%	-264	-3,764	41.3%
都市ガス	2.11	m <sup>3</sup>	63,416	68,882	108.6%	5,466	677	101.0%
LPGガス(事業所)	6.09	m <sup>3</sup>	1,064	877	82.5%	-187	-14	98.5%
CO <sub>2</sub> 排出量		kg	8,979,958	9,895,777	110.2%	915,819	1,455,884	117.3%

※電気のCO<sub>2</sub>排出係数は電力事業者ごとに排出係数が違うため、以下の係数を使用しています。  
関西電力 0.423、エネサプ0.206、洗陽電機0.545、にちほクラウド0.543、(株)CWS0.364。（単位はいずれもkg-CO<sub>2</sub>）

#### 【参考資料】 供給高千円当りに換算したCO<sub>2</sub>排出量

##### CO<sub>2</sub>排出量

(単位:トン)

項目	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
CO <sub>2</sub> 排出量 (t)	8,700	8,592	8,417	8,439	9,896
CO <sub>2</sub> -kg/供給高1億円当	23.5	22.9	22.4	22.0	25.6
供給高	370億円	375億円	375億円	382億円	386億円



1. コープなんごう



2. 自然冷媒使用の冷ケース (コープなんごう)

## ② 電気使用量

- ① 電気使用実績は1,868,801kWh、前年比110.5%となり、前年を上回りました。田原本物流センター東棟低温センターの稼働、コープなんごう出店に伴い、電気使用量は増加しました。ならコープの子会社(株)CWSは小売電気事業者登録(事業者番号A0362)をおこない、2016年12月からならコープグループ15施設に電気供給を開始、2017年度からは組合員への電気供給を開始する準備を進めました。引き続きCO<sub>2</sub>排出量の削減に向け、環境にやさしい電気の調達や省エネ機器の導入などに取り組みます。
- ② 店舗事業では、コープなんごうの出店により電気使用量は増加しましたが、ディアーズコープいこま、コープおしくま、コープ六条、コープ朱雀、コープいまご、ディアーズコープたつたがわ、

コープみみなし、コープたかだの外灯LED化による効果が出ています。コープなんごうでは太陽光発電自家消費によって同規模店舗と比較し大幅な電気使用量の削減につながりました。



コープなんごう太陽光発電モニター

- ③ ならコープではエコオフィス手順を策定し、エアコンの設定を冷房:28℃以上、暖房20℃以下にし、省エネに努めました。6月に開催した第44回通常総代会とエリア別総代会議の使用電力は、グリーン化をするにあたり奈良県産5,000kWhの太陽光発電グリーン証書システムを利用し「グリーン電力証書」の環境価値を購入しました。

電気使用量

単位 (kWh)

	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
全体	17,119,440	16,972,522	16,679,400	16,919,193	18,688,013
前年比	95.7%	99.1%	98.3%	101.4%	110.5%
店舗	13,579,894	13,047,761	12,729,648	12,507,007	13,036,671
前年比	97.5%	96.1%	97.6%	98.3%	104.2%

## ③ 車両燃料使用量

- ① 車両燃料(ガソリン・軽油・LPG)使用量は392,159ℓと前年比95.9%となりました。
- ② ガソリン使用量は、95,577ℓと前年比92.6%と削減することが出来ました。電気自動車を35台まで増車したことで使用量削減を行うとともに災害時の電源として活用できるように、2017年度までに50台に増やす計画としています。
- ③ 軽油使用量は、293,936ℓと前年比98.2%と削減することが出来ました。バイオディーゼル燃料(BDF)使用量は114,571ℓと前年比118.5%となり、同量の軽油使用量の

削減ができたことから3,001tのCO<sub>2</sub>削減効果がありました。BDF車両は63台で運用していましたが、車両老朽化による故障リスクが増加してきていることから60台での運用としました。今後は、資源循環型社会に向けてBDFの使用を車両だけでなく、自家発電装置をはじめさまざまな方面での活用を検討します。

- ④ LPG使用量は前年比41.3%となりました。LPG車両製造中止に伴い、店舗での農産集荷用車両1台のみを運用しています。

車両燃料使用量

単位 (リットル)

燃料	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
ガソリン	132,287	118,250	114,549	103,217	95,577
前年比	108.3%	89.4%	96.9%	90.1%	92.6%
軽油	243,499	282,491	277,881	299,331	293,936
前年比	95.2%	116.0%	98.4%	107.7%	98.2%
LPG	80,000	65,926	42,537	6,410	2,626
前年比	84.2%	82.4%	64.5%	15.1%	41.3%



3

3.電気自動車



4

4.BDF燃料車両

BDF燃料使用量

	単位	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
BDF燃料使用量	リットル	49,437	55,830	59,858	96,665	114,571
BDF配達車両台数	台	30	35	45	63	60
CO <sub>2</sub> 削減効果	kg	129,723	146,498	157,067	253,649	300,176



アースデーでの電気自動車とBDF車両展示



移動店舗車 (生駒市)



買い物バス

④ ガス使用量

都市ガス使用量が68,882m<sup>3</sup>と前年比101.0%、LPガス使用量が887m<sup>3</sup>と前年比98.5%となり、全体では前年比101.0%と増加しました。店舗事業の「Okan's」の惣菜が各店舗好評で店内加工に伴う使用量が増加しました。

ガス使用量

	単位	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
都市ガス	m <sup>3</sup>	66,428	69,551	61,804	68,205	68,882
前年比		102.4%	104.7%	88.9%	110.4%	101.0%
LPガス	m <sup>3</sup>	1,028	1,102	1,034	890	877
前年比		106.7%	107.2%	93.8%	86.1%	98.5%

⑤ 紙使用量

紙使用量は前年比105.8%、75,763kgと増加しました。コープなんごうオープンにともなう、組合員への告知チラシ印刷頻度の増加等が上げられます。印刷物の精査やパソコンでの画面確認やコピー用紙の裏紙使用について再度徹底することが課題となりました。

紙使用量

	単位	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
全体実績	kg	74,746	72,941	71,993	71,636	75,763
前年比		89.5%	97.6%	98.7%	99.5%	105.8%

⑥ 水道使用量

水道使用量72,872m<sup>3</sup>と前年比94.8%と4年連続削減することができました。

⑦ フロン排出抑制法への対応

2015年4月施行のフロン排出抑制法に基づき、ならコープでは簡易点検や定期点検を実施しました。年間漏えい量は718t- CO<sub>2</sub> (前年804t- CO<sub>2</sub>、前年比89.3%)となりました。2016年11月オープンしたコープなんごうでは、自然冷媒 (CO<sub>2</sub>)

の機器導入、2017年秋にオープンを予定しているコープ七条も自然冷媒 (CO<sub>2</sub>) の機器導入を計画し、フロン漏えい量の抑制に取り組めます。



1 2

1.ならコープでんき 記者会見



2.吉野発電所（吉野町西谷）

## エネルギー政策に基づく取り組み

2012年2月に「2020年に向けた新たな環境政策」を策定し、原子力発電に頼らない社会の実現を前提に奈良の地で資源循環型社会の形成と温室効果ガスの排出削減に積極的に取り組むことを掲げました。2014年には「エネルギー政策」を策定し、電力の大規模集中型から地域の自然環境を活用した自立分散型エネルギーへの転換をめざし、太陽光発電システムの設置など再生可能エネルギーによる発電の取り組みを子会社(株)コープエナジーならとともにすすめました。またエネルギー政策を実現するための基本3原則「つくる」「減らす」「自立する」を定め、子会社(株)CWSが小売電気事業者登録（事業者番号A0362）をおこない、小売電気事業に参入し、自立分散型エネルギー社会の転換に向けて行動を開始しました。また、ならコープでは地域や家庭での再生可能エネルギー・省エネを普及する「一般財団法人 再エネ協同基金」を設立しました。



一般財団法人 再エネ協同基金 設立総会

### ①再生可能エネルギーを「つくる」取り組み

ならコープ子会社である(株)コープエナジーならとともに「つくる」取り組みをすすめ、8月吉野事業所（902kW（全量売電890kW、自家消費12kW））、10月京都綾部発電所（全量売電301kW）、12月本部事業棟（自家消費49kW）、1月コープなんごう（自家消費307kW）、2月コープなんごう（全量売電61kW）の発電を開始し、ならコープグループでの発電容量は3,815kWの設備容量、総発電量3,077,268kWhとなり、事業電力使用量の16.4%となりました。発電した太陽光発電は一般家庭約854軒分/年の電気使用量に相当する電力を発電することができました。ならコープでんきの電源として再生可能

エネルギー比率50%以上を確保するために、2020年度までに5MWまで発電容量を増加させる計画を前倒し、2017年度中に5MWの発電容量をめざし取り組みます。このことによりエネルギー政策でめざした事業電力使用量21%以上の再生可能エネルギーによる発電を2017年度中に実現できる見込みです。



本部発電所

### ②「減らす」取り組み

コープなんごうや本部事業棟に設置した太陽光発電設備で発電した電気は、CO<sub>2</sub>排出量ゼロの電気として、同店舗や同施設に入居するあすならハイツ恋の窪で使用し、購入する電気を削減することができました。また、本部事業棟には太陽光発電と連携した12.4 kWの蓄電システムを設置し、太陽光

発電で発電した電気を蓄え、停電等災害発生時に通信機器や電気自動車などの電源として活用できるようになりました。

本部事業棟  
12.4kW蓄電システム



3 4

3.再エネ協同基金創立記念学習会



環境活動報告

4.うだ夢創の里市民共同発電所 点灯式

### ③ 「自立する」取り組み

ならコープ子会社である(株)CWSが小売電気事業への参入に向けた登録(登録事業者番号A0362)を10月におこない、ならコープグループの施設への電気供給を12月に開始しました。組合員への電気供給「ならコープでんき」は2017年4月に開始することができました。「ならコープでんき」はならコープグループで発電した電気を含むFIT電気(再生可能エネルギー)約45%の環境に配慮した電気として組合員に

お届けするとともに再生可能エネルギー比率50%以上をめざし、地域での再生可能エネルギー由来の発電量の増加に取り組めます。



④ FIT売電収入は1億468万円(ならコープ6,119万円、(株)コープエナジーなら4,349万円)となりました。売電収入の一部を寄付し、再エネ基金を創設、基金を管理する一般財団法人 再エネ協同基金を設立しました。同法

人では、家庭や地域での再生可能エネルギー活用への支援をすすめ、学習会の開催とエネルギー効率の高い太陽熱利用機器への助成を2件実施、また「うだ夢創の里市民共同発電プロジェクト」への支援をおこなうことができました。

ならコープ太陽光発電施設一覧と2016年度発電量

発電所名	設置年月	事業者名	発電規模(kW)	事業内容	2016年度発電量(kWh)
西奈良支所	2007年 12月	ならコープ	20	自家消費	23,423
田原本物流センター東棟・西棟	2012年 6月	ならコープ	829	FIT	914,298
田原本物流センター北棟・田原本支所	2014年 10月	ならコープ	273	FIT	304,240
吉野発電所	2016年 8月	ならコープ	890	FIT	389,072
吉野発電所	2016年 8月	ならコープ	14	自家消費	4,882
本部事業棟	2016年 12月	ならコープ	49	自家消費	13,620
エコ SUN シャイン	2012年 11月	(株)コープエナジーなら	95	FIT	109,641
桜井支所	2015年 9月	(株)コープエナジーなら	53	FIT	62,522
西奈良支所	2015年 9月	(株)コープエナジーなら	53	FIT	65,951
コープたつたがわ	2015年 9月	(株)コープエナジーなら	365	FIT	421,733
コープみみなし	2015年 10月	(株)コープエナジーなら	248	FIT	285,585
コープ朱雀	2015年 11月	(株)コープエナジーなら	256	FIT	310,038
京都綾部	2016年 10月	(株)コープエナジーなら	301	FIT	96,117
コープなんごう	2017年 1月	(株)コープエナジーなら	61	FIT	5,544
コープなんごう	2017年 2月	(株)コープエナジーなら	308	自家消費	70,603
合計			3,815		3,077,268



1

1.つくばね発電所（東吉野村）



2

2.あすならハイツ柳本 子ども食堂

⑤地域の自然環境を活用した自立分散型エネルギーへの転換

県南部地域での再生可能エネルギーの開発と普及を進めるために、ならコープグループで支援をすすめてきた、東吉野村「つくばね発電所」が2017年夏に小水力発電を開始します。また、川上村や下北山村と地域エネルギー資源の活用と地域振興について協議をすすめました。

- ⑥ 2016年度、本部事業棟に49kWの太陽光発電システムと12.4kWの蓄電システムを設置し、発電した電気を自家消費することでCO<sub>2</sub>排出量抑制につなげるとともに、災害発生等停電時での電源として活用準備ができるようになりました。

事業系廃棄物削減の取り組み

- ① 事業系廃棄物は551t（前年541t）と前年比101.8%となり、1t増加しました。生鮮商品の商品点検強化や、事業所の廃棄ゼロキャンペーン、在庫カット徹底キャンペーンなどに取り組みました。農産加工センターでは、らくらくお料理パック食材カットの内製化に伴う加工作業増加による生ごみ排出量が増加しました。
- ② 田原本物流センターでの在庫管理商品や、農産加工センターでの予備商品を田原本町社会福祉協議会や社会福祉法人協同福祉会の各施設へ提供することで食品ロスの削減に努めるとともに、県内で取り組まれている子ども食堂（こども食堂いかるが、CoDoMo食堂かんまき、大和八木こども食堂、庭カフェばちばち）にお米（約1,270kg）を提供して活動を支援しました。



らくらくお料理パック



カット野菜製造

- ③ 生ごみリサイクルでは食品残渣量405t（前年405t）前年比100.1%に対してリサイクル量は266t（前年270t）となり、再生利用率は65.6%（前年66.9%）となりました。
- ④ 農産加工センターの生ごみリサイクルは(株)ハートフルコープならに委託し、生ごみ22,480kgをリサイクルしました。リサイクルされた乾燥残渣（2,248kg）は、県内の産直農産物生産者によって、堆肥と混ぜ肥料として使用されています。

事業系廃棄物の排出量

（単位：Kg）

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
無店舗事業	22,712	21,356	17,019	21,206	23,360
店舗事業	386,017	367,133	389,571	428,442	430,451
農産加工センター	45,946	70,117	90,628	68,204	75,484
物流センター	16,980	19,632	18,890	23,994	22,508
合計	471,654	478,238	516,108	541,846	551,802
前年比（%）	96.6	101.4	107.9	105.0	101.8

生ごみ排出量

（単位：Kg）

	2012年度		2013年度		2014年度		2015年度		2016年度	
	生ごみ排出量	リサイクル量	ごみ排出量	リサイクル量	生ごみ排出量	リサイクル量	生ごみ排出量	リサイクル量	生ごみ排出量	リサイクル量
無店舗事業	22,712		21,356		9,687		12,174		11,936	
店舗事業	367,113	309,172	367,133	322,444	348,575	298,472	300,780	246,143	295,716	243,669
農産加工センター	45,946		70,117		90,628	2,741	68,204	24,810	75,484	22,480
物流センター	16,980		19,632		18,890		23,994		22,508	
合計	452,750	309,172	478,238	322,444	467,780	301,213	405,152	270,953	405,644	266,149
リサイクル率（%）		68.3		67.4		64.4		66.9		65.6



3 4

3.店舗リサイクルコーナー（コブなんごう）



環境活動報告

4.リサイクル中間処理センター（田原本物流センター）

## 再資源化の取り組み

- ① 段ボール再資源化量は710,940kg（前年比202.1%）となりました。物流センター東棟低温センター稼働による冷凍商品の取り扱いにより増加しました。
- ② 発泡スチロールは、梱包用として使用している漁箱と、使えなくなった共同購入用の保冷シッパを43,032kg（前年比109.3%）減容し、プラスチック原料としてリサイクルしました。
- ③ OCR注文書及び古紙は、店舗を除く各事業所で発生した古紙を古紙業者に141,730kg（前年比109.4%）引渡し、古紙原料として全量をリサイクルしました。
- ④ PPバンド・ペットリングのリサイクルは、PPバンド3,136kg、ペットボトルキャップ・ペットリング2,947kgの全量をリサイクルしました。2016年度からは、ペットボトルキャップを全店で回収するとともに、環境のことについて考え行動する日であるアースデー会場でも回収をおこない、リサイクル啓発の機会としました。
- ⑤ 牛乳パックや空き缶・トレーは、行政での回収、地域でのリサイクル活動によってリサイクルが定着しつつあります。ならコープの回収でも商品によりバラつきはありますが、安定した回収量の確保がすすみました。
- ⑥ 商品案内カタログの回収量3,262t（前年比104.0%）、内掛け袋は、共同購入・宅配・荷受けハウスお届け時に使用しているポリエチレン袋31,862kg（前年比102.4%）回収し、リサイクルしました。
- ⑦ 新聞古紙の回収は80,530tを回収しました。無店舗事業の配達時に古紙回収することで地域での回収参加が困難な組合員のお役立ちに繋がりました。

### リサイクル実績

単位 (kg)

品目	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
ダンボール	453,860	429,660	403,220	351,770	710,940
前年比	99.9%	94.7%	93.8%	87.2%	202.1%
OCR・古紙	116,120	127,240	143,460	129,500	141,730
前年比	92.5%	109.6%	112.7%	90.3%	109.4%
PPバンド	1,645	1,665	2,055	1,875	3,136
前年比	101.2%	101.2%	123.4%	91.2%	167.3%
ペットリング/ペットボトルキャップ	170	1,250	1,682	2,403	2,947
前年比	113.3%	735.3%	134.6%	142.9%	122.6%
発泡スチロール	16,376	19,658	28,142	39,358	43,032
前年比	102.2%	120.0%	143.2%	139.9%	109.3%
牛乳パック	45,800	40,470	40,420	38,640	40,050
前年比	93.9%	88.4%	99.9%	95.6%	103.6%
空き缶	57,385	54,490	51,720	50,110	42,890
前年比	98.9%	95.0%	94.9%	96.9%	85.6%
PSトレー	22,608	19,608	20,536	18,832	16,584
前年比	84.1%	86.7%	104.7%	91.7%	88.1%
PETボトル	100,734	96,390	87,350	92,060	97,593
前年比	108.8%	95.7%	90.6%	105.4%	106.0%
卵パック	23,795	22,365	21,980	19,395	20,175
前年比	101.7%	94.0%	98.3%	88.2%	104.0%
共同購入カタログ	2,738,710	3,039,625	3,079,135	3,137,220	3,262,990
前年比	101.4%	111.0%	101.3%	101.9%	104.0%
内掛け袋	27,165	26,025	26,613	31,128	31,862
前年比	82.2%	95.8%	102.3%	117.0%	102.4%
新聞古紙 (kg)	—	—	—	27,000	80,530
前年比	—	—	—	—	298.3%



1.農産物直売所(コープおしくま)



2.環境保全活動助成団体交流会(12月)

## 環境に配慮した商品の普及活動

- ①環境配慮型商品の普及は「環境配慮商品基準」に添って商品選定をおこない取り組みました。
- ②資源循環型酪農をすすめている大内山酪農業協同組合との産直商品の生協牛乳、奈良県産米粉を使用した米粉入り食パン、県内産を含めて8%の飼料米を給餌している産直たまごピンクなどの普及活動に取り組みました。

## 地産地消の取り組みをつうじた、環境保全と低炭素社会推進

地産地消をすすめることは、商品の輸送時に排出されるCO<sub>2</sub>を減らすための方法のひとつであるという視点を持ってさまざまな活動をすすめました。

- ①奈良県エコキャラクター「な～らちゃん」の「米粉入り食パン」は40,472点の利用がありました。1点利用につき1円を積み立て、奈良県環境フォーラムに寄付することで活動を支援し、奈良県の環境保全に貢献しています。
- ②店舗での農産物直売所の供給高は、秋以降の天候不順の影響で不作傾向、年明け寒波の影響で出荷減少もあり3億467万円(前年3億864万円・前年比98.7%)の供給高となりました。
- ③「食べる“なら”大和」ブランドの商品普及は、米の利用点数は前年比106.5%と伸長しましたが、利用単価の低下に伴い供給高前年比99.5%と前年を下回りました。



奈良県環境フォーラムでの寄付金贈呈式



な～らちゃん



米粉入り食パン6枚

## 行政、他団体との連携

- ①奈良県との連携では、環境県民フォーラム、環境審議会、循環型社会形成推進協議会、節電協議会、節電スタイル推進委員会などに参加しました。また、奈良市、生駒市、天理市などの地域協議会に参加しました。
- ②一般社団法人 地域未来エネルギー奈良主催による学習会に参加し、再生可能エネルギーの関心のある活動団体との交流をすすめました。自然エネルギー学校に参加し、他県での再生可能エネルギー活用先進事例について学びました。
- ③環境保全活動に取り組む団体への助成枠を拡大し、2016年度環境保全活動の助成金として21団体に104万8,000円を助成しました。12月には環境保全助成団体交流会を開催し、活動助成団体の取り組み交流と奈良県環境総合計画の報告を受け、これからの取り組みについてワークショップを開催しました。

## 組合員とともにすすめた環境活動

### 【くらしの見直し活動】

- ①エネルギー政策に基づき「家庭の節電・省エネ、くらし方の見直し」等の取り組みを実施しました。6・10月にOCR注文書アンケート方式で測定を実施し、331人の参加がありました。また、家庭での温暖化防止エコプログラム「やっばエコやねん!!」には、のべ356人が参加しました。その他イベント等でも1日エコライフレポートを実施し、あわせて1,213人が参加。約673kgのCO<sub>2</sub>削減効果となりました。
- ②エネルギー問題や環境問題を考える機会として、8月に「エコキャンペーン(クールシェア:涼しい場所を皆でシェアする)」を全店舗で実施しました。店舗でのクールシェアには、1ヵ月間で20日以上来店者数3,079人、10



エコライフチャレンジ



3.マイバッグ持参の取り組み(11月)



4.使用済み天ぷら油回収(コブ朱雀)

日以上20日未満来店者数5,662人と前年に引き続き、多くの組合員が参加しました。組合員からは「今年の夏は暑かったから、家庭での電力を使用せず、お店に来て買い物をゆっくりできた」、「塩あめのおもてなしが嬉しかった」などの声が寄せられました。

- ③環境測定活動は、組合員モニター 305人(前年310人)が酸性雨、二酸化窒素、河川CODの測定を県下30市町村で実施しました。25年連続して地域の身近な環境を知る取り組みを実践しています。



環境測定活動

- ④6月の環境月間を中心にマイバッグ持参の啓発をおこないました。マイバッグ持参率は95.1%(コブなんごう除く)と高い水準を維持しています。コブなんごうでは2017年10月のレジ袋有料化に向け、組合員とともに、マイバッグ持参率向上のための活動に取り組みました。
- ⑤「COOL CHOICE」への参加の意思を示すものとして広く呼びかけをおこない、「NPO法人奈良ストップ温暖化の会(NASO)」へ566人の賛同書を提出しました。



マイバッグ持参運動

- ⑥電力会社を選択する消費者の役割を学ぶため、「どうやって選ぶ? 私たちのでんき」と題し、消費生活アドバイザーコンサルタント協会常任理事 辰巳菊子氏による講演を開催し、60人

が参加しました。またならコブでんき学習会を各地で開催し、ならコブグループが小売電気事業に参入する意義について69人が学びました。



電力自由化学習会

## アースデーの取り組み

「アースデー 2016 in なら」を国営飛鳥歴史公園石舞台地区で開催し、約2,000人が参加しました。「新環境政策」、「エネルギー政策」、「吉野共生プロジェクト」、「菜の花エコプロジェクト」の紹介や奈良県南部東部地域自治体などによる物産販売などがおこなわれ、各自治体や地域の諸団体との関係づくりが進展しました。また、「吉野の森と水を守るための募金」102万5,958円(2015年度分)を奈良県森林組合連合会に贈呈しました。



「吉野の森と水を守るための募金」贈呈式

## 菜の花エコプロジェクト

- ①4月に「菜の花まつり」を開催しました。生駒市西畑町自治会、いこま棚田クラブ、ならコブ組合員など約195人の参加がありました。「菜の花クラブ」による菜の花栽培(10月~6月)は、西畑町で20家族68人(前年22家族69人)の登録があり、菜の花の手入れ、芋堀体験などを6回実施し、のべ198人が参加しました。菜種の収穫量は約12kgとなりました。
- ②各店舗でのボランティアによる使用済み天ぷら油回収活動は、のべ1,903人の参加があり、約4,340ℓ回収されました。CO<sub>2</sub>換算で11,388kgになります。ディアーズコブいこまでは、回収作業の負担軽減としてペットボトルによる回収方法変更の周知をすすめました。



菜の花まつり(生駒市西畑町)



1.ISO定期サーベイランス (9月)

2.奈良・人と自然の会

## 環境マネジメントシステムの運用 ISO14001:2004

### 2016年度に取り組んだ目標に対する結果報告

2016年度計画	実績	評価
CO <sub>2</sub> 排出量削減の省資源・省エネルギーの推進。CO <sub>2</sub> 排出量、前年実績以下を目指します。	2016年度 CO <sub>2</sub> 排出量は9,895t。委託していた事業の内政化と新規出店による電気使用量増加が要因。	×
車両燃料のCO <sub>2</sub> 排出量総量を供給高換算で前年実績削減を目指します。	車両燃料使用によるCO <sub>2</sub> 排出量は996t (前年1,035t) に削減できました。	○
電気使用量、前年実績削減を推進します。	設備投資を実施した物流センター東棟 低温センターの稼働などにより前年176万kWh増加しました。	×
紙の使用量は、前年実績削減を目指します。	パソコンでの画面確認やコピー用紙の裏紙使用徹底が不十分となり、使用量が増加しました。	×
事業系廃棄物の再資源化	生ごみ排出量は前年同程度、食品リサイクル率は60%以上を維持しています。	○
マイバッグ持参率運動を推進し、前年度持参率を維持させます。	持参率95.1% (コープなんごう除く) と高い水準で維持ができています。コープなんごうでは店舗職員・組合員がともにマイバッグ持参運動に取り組んでいます。	○
くらしの見直し活動の実践	一日エコライフレポート、温暖化防止エコプログラム「やっぱエコやねん!」に取り組みました。	○
環境保全活動助成の実施	21団体に104万8,000円と助成をおこない、12月には交流会を開き、奈良県と環境保全活動団体が意見を交わせる場を持つことができました。	○
環境イベントの実施	アースデー 2016inなら を国営飛鳥歴史公園石舞台で開催し、約2,000人が参加しました。	○
吉野共生プロジェクト：森と水を守るための募金の活動	黒滝村に植樹地を移し、広葉樹を50本植樹しました。地域の方が集い、総勢92人が参加しました。	○
施設の省エネ機器導入ガイドラインに基づき環境配慮をしたエコストアをすすめます	コープなんごうを環境配慮型店舗として開店し、自然冷媒 (CO <sub>2</sub> ) を使用、太陽光発電設備も合わせて設置し、電気使用量を削減しました。	○
食品ロスの取り組み	9月からあすなろ支援システムで「供給管理期限切れ商品」の無償提供を開始し、地域貢献活動が前進しました。また、エリアでも食品ロスに関する啓発活動が増加し、食品ロスへの関心が高まりました。	○

### ISO内部監査の実施

8月17日～8月19日(システム及び運用状況の監査) ISO内部監査員のチームを編成し、内部監査チェックシートを用いて監査を実施しました。実施においては、ISO内部監査規程とISO内部監査計画書にある決め事に留意しました。監査員51人により、ならコープグループ全部署・部門で実施しました。所見総数は47件で、前年よりも6件減少しました(不適合4件、提案43件)。環境に関する所見では「目的、目標及び実施計画」が多く、品質に関する所見でも「品質目標、品質マネジメントシステムの計画」が多く出されるという結果になりました。

### 定期審査と審査結果

9月20日、21日には、外部審査機関「日本科学技術連盟」によるISO定期サーベイランスがおこなわれました。所見総数は42件(不適合0件、観察事項42件(良好な観察項目は20項目))、観察事項に対して各部門において改善課題につなげました。



3.特定非営利活動法人サークルおてんとさん



4.NPO法人ワンディッシュェイド協会

## 環境保全活動助成 2016年度環境保全活動助成団体一覧

ならコープは、1979年から省資源、ごみ減量の取り組みとして買い物袋持参運動をすすめ、店舗でのレジ袋1枚につき5円を環境募金とし、その一部を助成してきました。地域での環境保全活動の広がりがとても大切だと考え、今後も地域のみなさんとともに環境保全の取り組みをすすめていきます。

	団体名	主な活動地域	助成活動テーマ
1	秋篠川源流を愛し育てる会	奈良市	「秋篠川の環境保全と啓発活動（秋篠川を“ふれあい、いこい、ときめき”の場に!）」
2	アースデイ奈良2016実行委員会 <a href="http://www.geocities.jp/earthdaynara/">http://www.geocities.jp/earthdaynara/</a>	奈良市	「アースデイ奈良2016 ～つなげよう広げようアースデイのわ（輪・和・環）～種をまこう」
3	いごま棚田クラブ <a href="http://www1.kcn.ne.jp/~mkosaka/">http://www1.kcn.ne.jp/~mkosaka/</a>	生駒市	「生駒市西畑地区の棚田・里山の再生と創造」
4	馬見自然塾 <a href="http://hawknet.sunnyday.jp/umami/">http://hawknet.sunnyday.jp/umami/</a>	北葛城郡	「馬見自然塾（自然観察会）」
5	NPO法人エコパートナー 21 <a href="http://ecopartner21.blog3.fc2.com/">http://ecopartner21.blog3.fc2.com/</a>	奈良市	「子ども食と農と環境プロジェクト」
6	特定非営利活動法人宙塾	奈良市	「菜の花プロジェクトによる環境啓発活動」
7	春日山原始林を未来へつなぐ会 <a href="http://kasugatsunagu.wix.com/kasugatsunagu/">http://kasugatsunagu.wix.com/kasugatsunagu/</a>	奈良市	「奈良公園・春日山原始林周辺を活用した環境教育を推進するための普及啓発ツール」
8	川西町・サークルお花畑	川西町	「花とみどりのまちづくり地域の環境・美化活動、ゴミの減量とリサイクル」
9	NPO法人関西ワンディッシュェイド協会 <a href="http://www.onedish.net/">http://www.onedish.net/</a>	生駒市	「陶磁器の循環系社会の構築」
10	NPO法人グリーンスポーツ奈良	奈良市	「生ゴミを有機肥料に変えリサイクルしよう」
11	特定非営利活動法人サークルおてんとさん <a href="http://www.geocities.jp/otentsan/">http://www.geocities.jp/otentsan/</a>	奈良県	「地球温暖化防止やエネルギー問題に関するシンポジウム（講演会）の開催」
12	里山の山野草を守る会	桜井市	「里山の山野草を守る保全活動」
13	第16回全国菜の花サミット実行委員会 <a href="http://sakurananohana.org">sakurananohana.org</a>	奈良市	「第16回全国菜の花サミットinやまと 循環型社会へ向けて菜の花でつなぐ日本の「道」」
14	特定非営利活動法人東洋蝙蝠研究所 <a href="http://www.abri.or.jp">http://www.abri.or.jp</a>	奈良県	「コウモリ探知機（バットディテクター）製作教室」
15	奈良教育大学ボランティアサポートオフィス	奈良市	「あいふたfrom奈教プロジェクト」「陸前高田ひまわりオイルプロジェクト」
16	奈良・人と自然の会 <a href="http://naranature.com/">http://naranature.com/</a>	奈良市	「[ならやま景観整備事業]のビオトープ池整備及び絶滅危惧種「ニッポンバラタナゴ」育成環境の安定化」
17	平群里山クラブ <a href="http://hegurisatoyama.web.fc2.com">http://hegurisatoyama.web.fc2.com</a>	平群町	「ナラ枯れ対策による雑木林の景観保全」
18	平群ホテルツチの会 HP「平群ホテルツチの会」	生駒郡	「ホテル文化の醸成」
19	特定非営利活動法人ほっと <a href="http://hotnet.group.jp/">http://hotnet.group.jp/</a>	奈良市	「エネルギーの自給を災害時対策と共に考える研究」
20	山守の会	奈良市	「杉・桧林の再生」
21	緑友会 <a href="http://www.ryokuyu.org/">http://www.ryokuyu.org/</a>	奈良県	「地域に根ざした景観保全活動」



1

1.黒滝村植樹(11月)



2

2.(一社)かわかみらいふによるならコープ宅配事業委託

豊かな自然と文化を守り子どもたちに引き継ぐため、環境にやさしい地域づくりをすすめます

●吉野共生プロジェクトの取り組み

吉野共生プロジェクトは、吉野の森と水を守る募金活動から始まりました。このプロジェクトの4つの柱は、1.吉野の森と水の保全 2.吉野の自然と文化、歴史の継承 3.吉野の産業振興、地域経済の自立化支援 4.多数の組合員の

たすけあい・ささえあい・わかちあいです。この4つの柱を4つのキーワード(地産地消・食べる“なら”大和、新エネルギー・発電、森林・環境・水ビジネス、地域医療・福祉)で実現します。



●吉野の水と森を守るための募金

植樹地を昨年までの大淀町から林業発祥の地・黒滝村に移し、黒滝村、奈良県農業協同組合、奈良県森林組合連合会、ならコープの4者により11月に植樹祭を開催し、シダレザクラ・イロハモミジなど広葉樹50本を地元の方も含め総勢92人が植樹しました。2010年度から開始した植樹は940本、のべ参加人数695人になりました。吉野の豊かな森と水を守り、子どもたちに受け継ぐことの大切さを考える機会となりました。2017年度からは黒滝村から吉野事業所に植樹地を移行して取り組みます。

●黒滝村「絆の森整備事業」

9年目を迎えた「絆の森整備事業」は組合員と一緒に取り組み、6月にはササユリの植栽や獣害防止柵の補強、3月にはアカマツ95本の植樹とシイタケ植菌体験をおこない、森林の再生や里山の保全に取り組みました。



絆の森整備事業(6月)



吉野の森と水を守るための保全活動

●川上村との取り組み

川上村との「水源地の村づくりに関する包括連携協定」に基づく「川上村東部地区暮らしが続くプロジェクト」により、一般社団法人「かわかみらいふ」がならコープの宅配事業を10月から代行(受託)し、地域での見守り活動や雇用促進につながりました。11月には第2回「ふれあいまつり」への参加を通じ、自然の恵みに感謝する機会として取り組みました。



第2回川上村ふれあいまつり(11月)



3.「奈良桜よしの天然水」の製造（吉野事業所）



4.奥大和ゆうゆう祭2016

### ●吉野事業所の開設

5月に設立された吉野事業所は、地元で湧き出る天然水を使用した宅配水事業（奈良桜よしの天然水）や水耕栽培（フリルレタス）など、新たな分野への挑戦と吉野地域の拠点として農産物集荷事業を開始しました。これらの事業は、障害者自立支援法に基づく就労機会を提供する施設として（株）ハートフルコープよしのに運営を委託することにより、人と地域をつなげる拠点へと歩み始めることができました。

### ●吉野町、(株)南都銀行との「包括連携協力に関する協定」を締結

11月、ならコープは吉野町、(株)南都銀行は包括連携協力に関する協定書を締結しました。この度の協定では、3者連携のもと地域の発展および地域活力の増進、地域経済の発展および住民サービスの向上をめざしています。また協定締結を記念して吉野事業所で植樹をおこないました。



吉野町・(株)南都銀行との「包括連携協力に関する協定」締結式

### ●県南部東部地域の特産物普及支援

地場産品の取り扱いは、ジビエール五條の猪肉や野迫川村の「あまご（養殖）」、東吉野村産よもぎ使用で熊本県西原村（株）俵山交流館萌の里で作られた「いきなり団子よもぎ」、大和当帰を配合した「トウキス」の開発に関わり、無店舗事業を中心に取り扱いをすすめました。また、共栄会商品試食展示学習会においては、「十津川の木を使った産直住宅」の紹介や「奈良の木」を使用した贈り物開発プロジェクトからも出展をおこない、組合員への紹介活動をすすめました。



商品試食展示学習会（5月）

### ●吉野町西谷自治会との取り組み

吉野事業所の前を流れる竜門川にて「清流西谷の川と湧水恵みのプロジェクト アユ・アマゴつかみどりIN西谷」を開催し、北岡吉野町長をはじめ地元住民と組合員あわせて100人が参加しました。吉野事業所を拠点に自治体や各団体と連携し、地域の活性化に取り組みました。



清流西谷の川と湧水恵みのプロジェクト アユ・アマゴつかみどりIN西谷

### 奈良県南部東部地域活性化イベント「奥大和ゆうゆう祭2016」への参加

紀伊半島大水害の復興から始まった奈良県南部東部地域活性化イベントは、地域の風土・歴史・文化に根ざした魅力を発信し地場産業の振興を図る「奥大和ゆうゆう祭2016」として10月に吉野町（吉野木材協同組合連合会市場および吉野小学校）で開催されました。奈良県南部東部の特産品が一堂に集まった奥大和うまいもん市や地元の和太鼓、県警の音楽隊による演奏などの催しがあり、2日間で約3,600人の参加がありました。ならコープは主催者メンバーとして参加し、ウォーキング、クイズラリー、コープあったか便移動店舗紹介、桜よしの天然水試飲会など独自の企画で賑わいました。



奥大和ゆうゆう祭2016

グラフで  
見る

# ならコープの 環境活動

再生可能  
エネルギーの  
普及



太陽光発電



BDF車両\*

CO<sub>2</sub> 削減



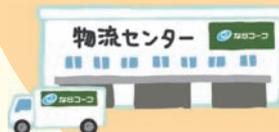
省エネ設備

(冷凍冷蔵設備・空調・LED照明など)



蓄電池

電気自動車



## 環境に配慮した地域社会づくり

産地見学・生産者との交流



環境測定



植樹活動



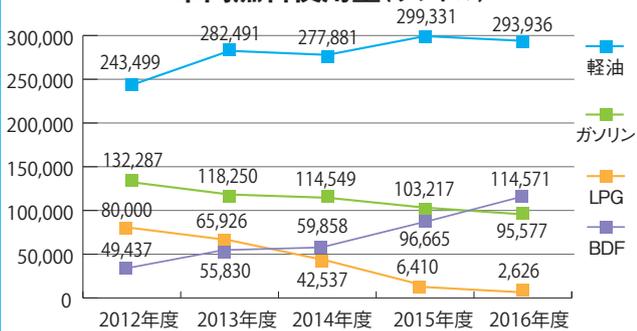
くらし見直



省エネ  
クッキング

※ BDF (バイオディーゼルフューエル)：植物由来の廃食油を化学処理して作られる軽油代替燃料のこと。

車両燃料使用量(リットル)



ガス使用量(m<sup>3</sup>)



# 環境配慮商品の普及



使用済み天ぷら油回収

BDF



レジ袋削減、マイバッグ持参



## 廃棄物の削減、リサイクル

古紙回収

リサイクル

共同購入チラシ・牛乳パック回収

事業の廃棄物削減・再資源化

し活動

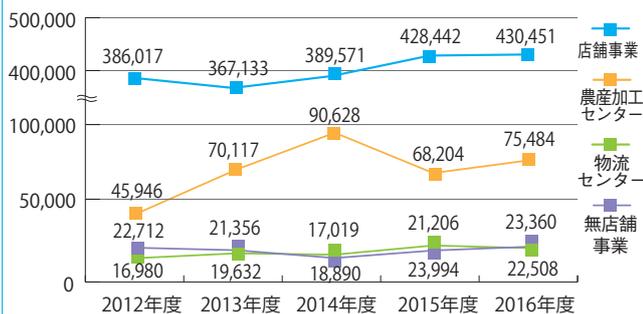
学習活動



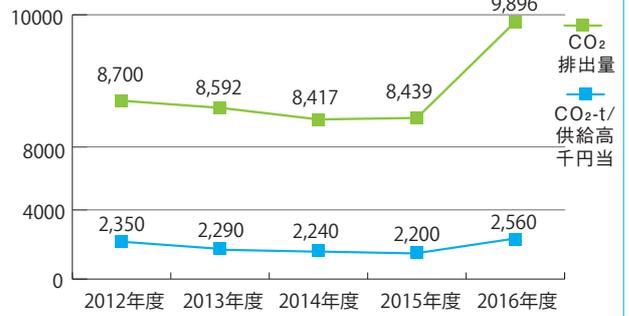
夏冷房 28℃  
冬暖房 20℃



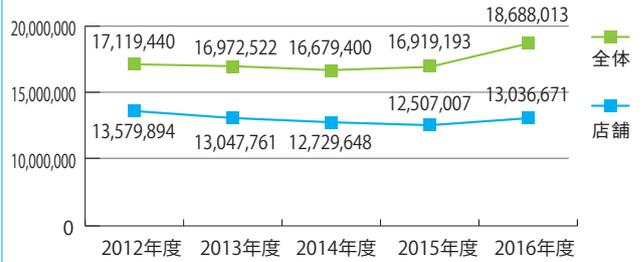
### 事業系廃棄物の排出量(kg)



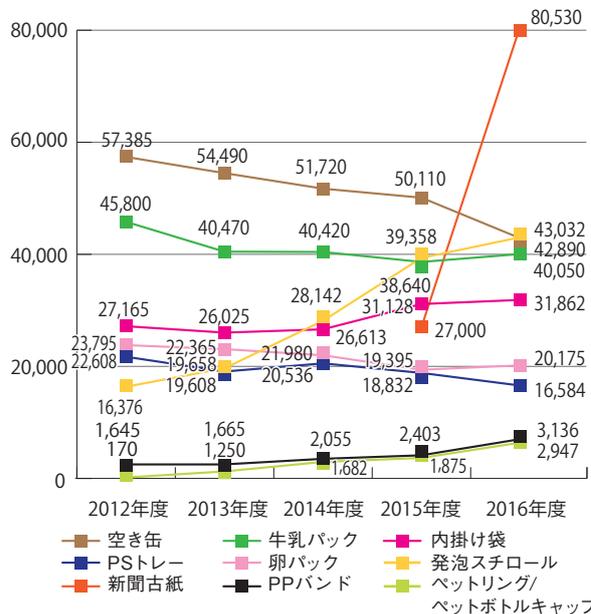
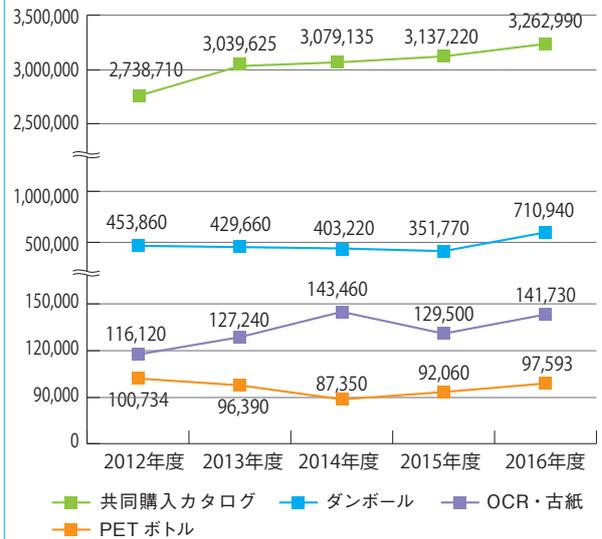
### CO<sub>2</sub>排出量(t)



### 電気使用量(kWh)



### リサイクル実績(kg)



2017年4月29日

市民生活協同組合ならコープ  
理事長 森 宏之 様

市民生活協同組合ならコープ 環境監査委員会  
委員長 松村 佳子 (奈良教育大学名誉教授)  
牛谷 光子 (組合員代表)  
福島 郁子 (組合員代表)  
諸熊えい子 (組合員代表)  
有山富士美 (ならコープ常任理事)  
稲野 玲子 (ならコープ理事)  
平井 典子 (ならコープ理事)  
萬本 量美 (ならコープ理事)  
松村 由美 (ならコープ監事)  
小野寺 浩 (株システムデザイン)

## 2016年度 環境監査報告書

ならコープ環境監査規程第6条、第7条及び第8条に基づき、環境パフォーマンスの有効性及び今後のめざすべき活動等の提案について、独立した立場から監査を実施しましたので、下記の通り報告いたします。

### I. 監査概要

環境監査 2017年4月29日(土) 9:00 ~ 15:00

2016年度ならコープ環境事業のまとめの書類監査 被監査者 山中専務理事・他6名

### II. 2016年度実績の評価

次の点について、活動が前進されており、良好な活動として評価できます。

1. 新店のコープなんごう、田原本物流センターが環境配慮型で新設され、CO<sub>2</sub>排出量が少ない地域の環境に良い施設が提供されています。
2. 再生可能エネルギーの提供の準備が整い、ならコープでんきがならコープグループの施設への電気供給を開始するとともに、組合員宅への供給準備をすすめました。
3. 発電事業収益金の一部を寄付し、(一財)再エネ協同基金が設立され、地域や家庭での再エネや省エネを普及するために、助成金の支援や学習会活動などをすすめられました。
4. 本部事業棟は太陽光発電と連携した蓄電システムの設置により、停電災害発生時に有効な対策が取られました。
5. 川上村との地域連携がすすみ、一般社団法人かわかみらいふによる買い物支援事業が開始され、地域での見守りなどがすすんでいます。
6. 新聞古紙のリサイクルでは多くの組合員の参加により、リサイクル実績が多く出ています。
7. 供給管理期限切れ商品を協同福祉会の各施設や県内の子ども食堂へ無償提供し、食品ロスの削減に努めています。
8. (株)ハートフルコープよしの(就労継続支援A型事業所)を設立し、宅配水事業・水耕栽培による人と地域をつなげる拠点づくりがすすんでいます。
9. 2005年から12年間累計で1,000万円以上の助成金を環境保全活動団体へ支援し続けています。

### III. 今後の取り組みにあたっての意見

1. 環境測定活動や組合員による環境活動の目的や意義、活動の状況などを広く見える化し、広報活動を強化していただきたい。
2. 環境商品、特に地場商品については、さらに努力して品目の拡大に努めていただきたい。
3. お店での使用機器(冷蔵冷凍ショーケース)の適切使用による節電教育を充実していただきたい。
4. バイオディーゼル車両、BDF対応、使用済みてんぷら油回収活動等について、時代的な環境変化にあった見直しをすすめていただきたい。
5. マイバッグ持参、レジ袋の有料化は新店オープン時から実施していただきたい。
6. 地域とともに奈良の環境を良くするように行政等との繋がり、防災・見守り活動などの連携を、一層強めていただきたい。

以上

2017年5月15日

環境監査委員会 様

市民生活協同組合ならコープ  
常勤理事会

## 環境監査報告書への対応

ならコープの2016年度の環境に関する取り組み全般について、前進面を評価していただくとともに、今後の取り組みにあたってのご意見・ご提言を賜り、深く感謝申し上げます。ならコープグループとして、引き続き役職員一同はじめ、組合員とともに環境負荷の低減と地球温暖化防止を中心とした持続可能な循環型社会構築の取り組みをすすめてまいります。今回の監査で評価いただいた内容を励みとしつつ、「環境監査報告書」でご指摘頂いた内容については、今後の課題として真摯に受け止め、以下のように対応をご報告申し上げます。

ならコープでは事業拡大にともなう環境負荷の排出量の増加が、今後の大きな課題となります。最新の省エネ機器の導入など環境保全への取り組みを効率的かつ効果的に推進し、事業活動における環境保全のためのコストとその活動により得られた効果を評価し事業を展開してまいります。また、品質及び環境に関するマネジメントシステムを効率的に運用することで継続的改善に努めてまいります。

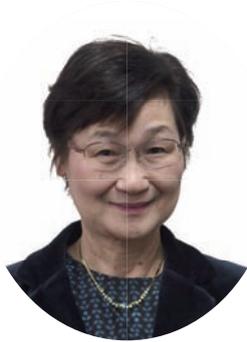
2017年秋にオープンを予定しているコープ七条においては、コープなんごうと同様に自然冷媒（CO<sub>2</sub>）の機器導入や太陽光で発電した電気を自家消費することで、電力消費量を削減しCO<sub>2</sub>排出量の抑制を実現してまいります。また、電源開発は引き続き目標を持って取り組み、ならコープでんきでは再生可能エネルギー比率50%以上の電気供給をめざすとともに（一財）再エネ協同基金の取り組みをつじ、原子力発電に頼らない社会に向けて組合員とともに環境やエネルギーについて考え、地球温暖化問題や再生可能エネルギーの活用についての学習や情報発信に取り組んでまいります。

### <ご意見についての対応方針>

1. 環境活動等の取り組みについては積極的なマスコミリリースやホームページなどを活用し、多くの方に共感いただけるよう、実際の活動の様子や取り組み結果のお知らせなどをつづけて見える化に取り組めます。また、行政や他団体の方々と環境活動に共同して取り組み、その評価・課題を共有しながらすすめてまいります。
2. 農産物荷事業など地産地消の推進と耕作放棄地での農産物の生産と一次加工の開発について検討をすすめ、循環型農業への挑戦をめざした調査・研究をすすめます。また、環境配慮商品などエシカル商品についての学習を「地域」「社会」「環境」「人々」4つの視点ですすめ、だれかの笑顔につながる『お買い物』を考えてまいります。あわせて産直商品・コープ商品は、商品の特徴・こだわり・食べ方・人気のお声等の情報の宣伝強化をはかり、組合員と社会に広く発信します。
3. 店舗での使用機器（冷凍冷蔵ケース）については環境省の助成事業を活用し、専門家による店舗省エネ診断をおこない、店舗でのエネルギー使用量の削減、職員への節電教育についてすすめてまいります。
4. バイオディーゼル（以下BDF）燃料の使用については、経年劣化によるBDF車両の故障リスクが増加してきていることから新たな増車はせず、車両によるBDF燃料の使用から自家発電装置や農業などの生産過程で使用されているビニールハウス等のボイラー設備など多方面にその可能性を調査し、資源循環型社会に向けて取り組んでまいります。
5. 2017年度秋に開店を予定しているコープ七条は開店当初よりレジ袋の有料化をおこないます。ただし、オープン時にはレジの混乱をさけるため、その対応については、組合員とともに検討します。
6. 地域や行政との連携については、奈良県での共生社会づくりをならコープの使命と考え、行政や地域で活動している団体・個人とともに取り組みを進展させ、地域振興や防災・見守り活動など各地域のニーズに対応できるように取り組んでまいります。

以上

## 第3者意見



気候ネットワーク代表  
弁護士

浅岡美恵氏

### 再生可能エネルギー 100%も夢ではない 中長期目標をもって挑戦へ

今年もならコープは元気だと実感できるレポートです。なかでも、最も目を見張ったのは、やはり環境活動報告です。ならコープはすでに、2020年に事業で使用する電力の21%を再生可能エネルギーで賄うとの目標をもち、2016年度には16.4%を達成し、2017年度末には21%以上となる見込みだとのこと。太陽光や小水力発電の増設計画が具体化し、実現できれば素晴らしいことだと思います。昨年、今世紀後半に二酸化炭素の排出実質ゼロを目指すとするパリ協定が発効しました。採択から1年も待たずに発効したパリ協定を意義あるものとしていけるかは、国の明確な方針や政策はいうまでもありませんが、各地域の事業者や個人の取り組みにかかっています。とりわけ、再生可能エネルギーへの転換を加速させていくことが重要な鍵となります。世界では、2050年までに再生可能エネルギー 100%をめざすと宣言した事業者による「RE100」の活動が注目されていますが、そこに日本から参加している企業は、まだ1社だけです。奈良県は自然のエネルギー資源が豊かな地域です。ならコープでも、2030年、2050年といった長期の目標を定め、知恵と工夫で挑戦し、各地の生協の取り組みを先導していかれることを期待します。組合員にとっても、生活のあらゆる場での指標となっていくでしょう。

事業活動における排出実質ゼロへのもう一つの重要な視点は、店舗の新設や設備の更新の機会を活用することです。そのためにも、長期的視点が不可欠です。ならコープでは配達業務が事業の柱の一つとなっていますので、車両更新や物流システムについても同じことがいえます。11月にオープンしたコープなんごうでは、太陽光発電設備はもとより、冷蔵・冷凍ケースに自然冷媒（CO<sub>2</sub>冷媒）を取り入れ、すでにそうした視点が取り入れられていることがわかります。

2016年度のCO<sub>2</sub>排出量は、前年度比及び計画比で増加したのは、新店舗の誕生や物流システムの変更によるものと思われます。地域の食と健康、時代に即した地域社会の要として事業活動を発展させることと、環境への貢献、とりわけCO<sub>2</sub>などの温室効果ガスの削減を両立させていくこと（事業の発展と排出削減のデカップリング）は、ならコープにとっても事業者活動のモデルとしても重要な課題です。そのためには、中長期計画が欠かせません。

さらに、電力自由化のもとで、再生可能エネルギーに注目して小売電気事業に参入したことは、組合員が電力会社を選ぶことを支援し、再生可能エネルギーの拡大を後押しすることとなります。2017年4月から事業は始まっていますが、組合員とならコープの関係をさらに高めることになるでしょう。大いに期待しています。

2017年5月13日 浅岡美恵

# プロフィール (組織の概要)

2017年3月31日現在

## 組織概要

団体名：市民生活協同組合ならコープ  
 創立：1974年7月25日  
 本部所在地：〒630-8503奈良市恋の窪一丁目2番2号  
 組合員数：269,972人(世帯) 県内加入率46.0%  
 出資金：99億5,435万円  
 職員数：1,594人(総合310人、専任92人、  
 定時職員1,192人(内、障がい者雇用人数20人))  
 子法人等：(株)奈良コープ産業 (株)CWS  
 (株)ハートフルコープなら (株)ハートフルコープよしの  
 (株)コープエナジーなら

関与法人：社会福祉法人協同福祉会  
 加盟団体：日本生活協同組合連合会  
 日本コープ共済生活協同組合連合会  
 奈良県生活協同組合連合会  
 生活協同組合連合会コープきんぎ事業連合  
 事業所：本部1 支所(配送センター)4  
 店舗11 吉野事業所1 田原本物流センター1

## 2016年度決算概況

供給高：386億5,021万円(前年比100.9%)

経常剰余金：4億160万円(前年比51.9%)

## 事業所

本部	奈良市恋の窪一丁目2番2号	
田原本物流センター	磯城郡田原本町宮古395-1	
吉野事業所	吉野郡吉野町大字西谷1121-4	
◇無店舗事業所		
西奈良支所	奈良市宝来町1064-1	
田原本支所	磯城郡田原本町宮古395-1	
高田支所	大和高田市大字出165-5	
桜井支所	桜井市安倍木材団地1丁目13-1	
◇店舗		
ディアーズコープいこま	生駒市俣口町758-1	0743-73-8833
コープ学園前	奈良市中山町西1丁目716-3	0742-51-2900
コープおしくま	奈良市押熊町1115	0742-41-0777
コープ朱雀	奈良市朱雀6丁目9-5	0742-71-2904
コープ六条	奈良市六条2丁目17-6-11	0742-45-7882
コープいまご	大和郡山市今国府町366-5	0743-57-0666
ディアーズコープたつたがわ	生駒郡平群町椿井734-1	0745-45-8181
コープ真美ヶ丘	香芝市真美ヶ丘1丁目14-5	(2016年11月閉店)
ならコープwithローソン真美ヶ丘店	香芝市真美ヶ丘1丁目14-5	0745-77-8200 (2017年6月予定)
コープなんごう	大和高田市大谷578-81	0745-25-1120
コープみみなし	橿原市新賀町478	0744-24-1200
コープたかだ	大和高田市曾大根196	0745-23-5757

## 社会福祉法人 協同福祉会

設立	1999年9月1日
代表者	理事長 村城正
法人所在地	大和郡山市
主な事業所	奈良市(6事業所)・生駒市(2事業所)・大和郡山市(5事業所)・天理市(4事業所)・橿原市(1事業所)・桜井市(1事業所)
主な事業内容	特別養護老人ホーム・養護老人ホーム・サービス付き高齢者向け住宅・小規模多機能型居宅介護(多機能型ケアホーム)・通所介護(デイサービス)・短期入所生活介護(ショートステイ)・認知症対応型老人共同生活介護(グループホーム)・定期巡回・随時対応型訪問介護看護・訪問介護・地域包括支援センター・保育所・障がい福祉サービス
職員数	1,023人
障がい者雇用人数	18人
施設数	19事業所

## ならコープの子法人等

	(株)奈良コープ産業	(株)CWS	(株)ハートフルコープなら	(株)ハートフルコープよしの	(株)コープエナジーなら
設立	1986年3月7日	2000年7月19日	2011年7月6日	2015年4月28日	2015年6月19日
代表者	代表取締役 米田季弘	代表取締役 中村和次	代表取締役 岩野隆志	代表取締役 宮高達也	代表取締役 中村和次
資本金 (ならコープ出資額)	60,000千円 (48,840千円)	35,500千円 (35,000千円)	10,000千円 (10,000千円)	20,000千円 (20,000千円)	10,000千円 (6,000千円)
主な事業所	天理市	奈良市	磯城郡田原本町	奈良市	天理市
主な事業内容	寿司・惣菜製造販売、ならコープ店舗における惣菜販売(みよし野)、水産品の集配加工、損害保険代理店・生命保険の募集、シャトレーゼ工場直売店経営	電話受注代行、清掃、清掃用具の販売、リース車両管理、建物保守・管理、警備、個配代行、一般貨物・貨物軽自動車運送事業、貨物利用運送事業、物流センター・農産加工センター・配送センターの運営及び管理の受託業務、便利屋事業、保育事業、食料品の製造・販売業務、自然エネルギー等の発電事業、電気供給・販売等に関する業務、フランチャイズ制飲食店経営、葬祭事業	農産物の選別・計量・発送及び配送、各種備品の洗浄、ダイレクトメールの企画・製作及び発送代行、印刷、宅配、段ボール・古紙ペットボトル空き缶泡スチロール等包装容器及び堆肥並びに廃油等のリサイクル、清涼飲料水の製造販売・発送・配送、農産物・食料品及び日用雑貨の販売・発送・配送、農業機械の販売・幹旋、農産物の生産、産業廃棄物収集運搬、産業廃棄物処理	宅配水用の原水精製および配送事業・販売、農産物の栽培・販売・集荷・選別・出荷作業	再生可能エネルギーを利用した発電設備の開発、設置、運営、維持管理、発電・発熱事業および電力・熱・燃料の販売、再生可能エネルギーを利用したシステムの販売、リース事業・メンテナンス、導入に関するコンサルティング
社員数	240人	769人	7人	15人	—
障がい者雇用人数	2人	31人	6人	12人	—
2016年度売上高	1,351,430千円	3,312,641千円	32,298千円	37,465千円	42,186千円
2016年度経常利益 または損失(△)	7,712千円	2,588千円	3,128千円	△40,140千円	△570千円

※( )付数値は内数で、間接保有分を表示しています。  
 ※子法人(株)CWSは、関連法人 東吉野水力発電(株)に一部出資しています。



## 市民生活協同組合ならコープ

〒630-8503 奈良市恋の窪一丁目2番2号  
 TEL 0742-34-8735 Fax 0742-88-6170  
 ホームページ <http://www.naracoop.or.jp/>



●国際規格であるISO9001:2008品質マネジメントシステム及び、ISO14001:2004環境マネジメントシステムの認証を取得しています。



- 用紙：適切に管理された森林の木材を利用したFSC®認証用紙
- インキ：大豆油インキを含む植物油インキ
- 印刷：有害な廃液を排出しない水なし印刷
- 製造、廃棄に発生するCO<sub>2</sub>をカーボンオフセット済
- CO<sub>2</sub>排出量：527.2g/部